

社会资本総合整備計画 ～下水道事業～

— 事後評価 —



10月21日
上下水道局下水道部下水道計画課

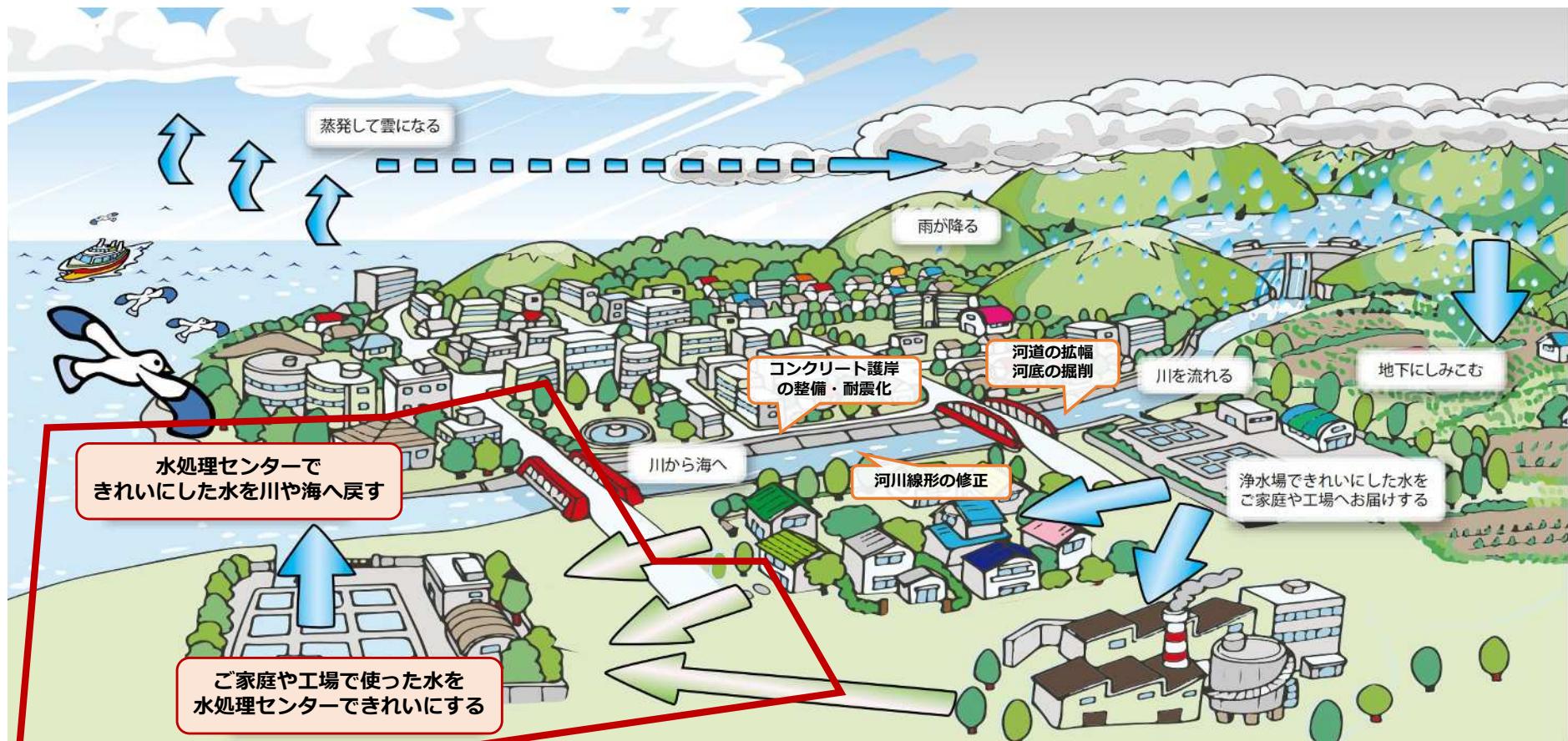
目次

- 1. 下水道の役割**
- 2. 事業を取り巻く背景**
- 3. 計画の概要**
- 4. 要素事業の計画内容**
- 5. 要素事業の進捗状況**
- 6. 評価指標の達成状況**
- 7. 市民に対する意見募集等の結果**
- 8. 総合的な所見及び今後の方針**

下水道の役割

下水道による良好な循環機能の形成

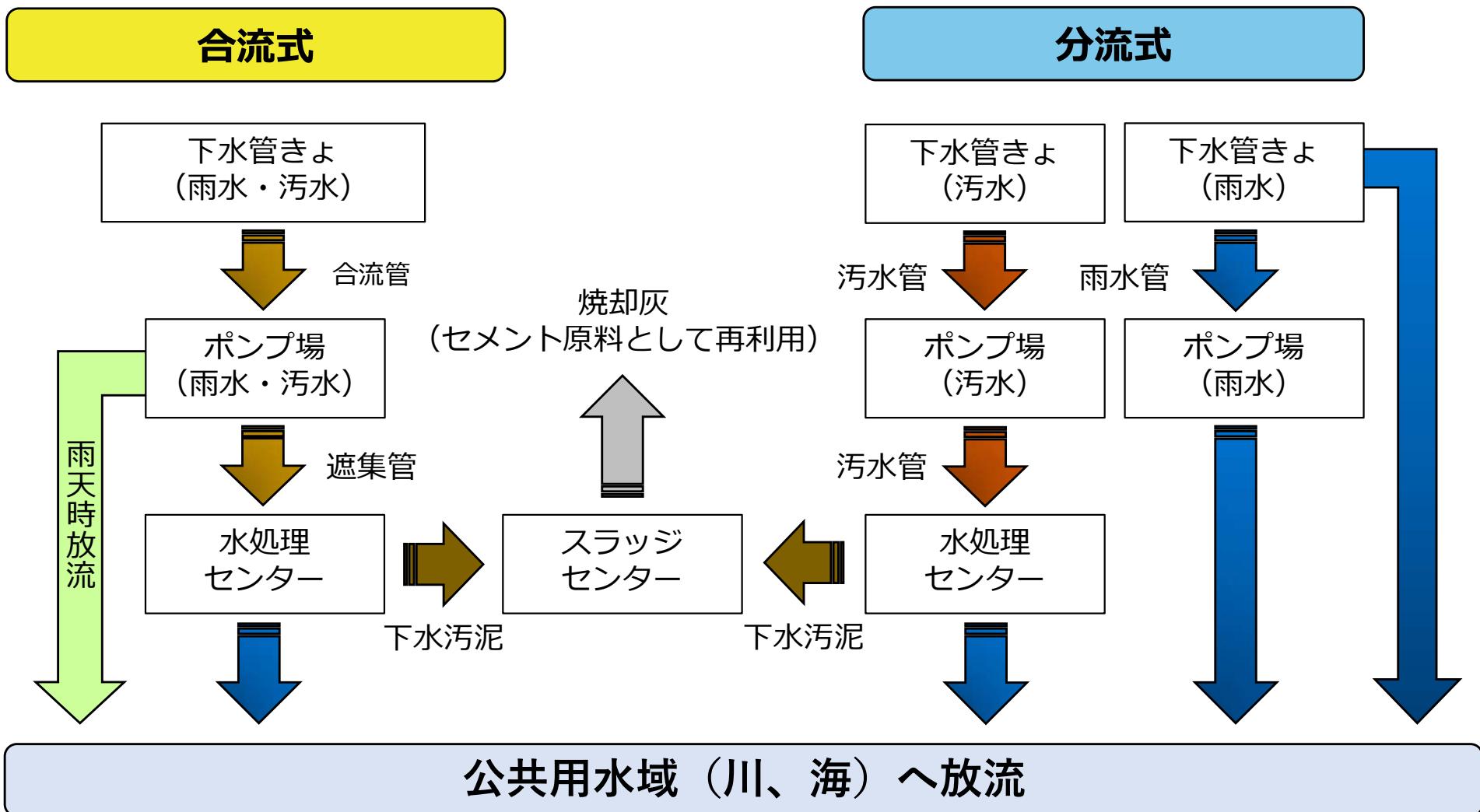
- 下水道は、市民生活に欠くことのできない生活基盤であり、使った水をきれいにして川や海に戻し、まちを大雨から守るという役割を将来にわたり継続して果たすことにより、市民に衛生的で安全な生活を提供している。



：河川改修事業による治水対策

下水道の役割

下水道施設の構成



下水道の役割

下水道の排除方式

- 下水を集める方法には、生活排水などの汚水と道路や敷地内に降った雨水を1本の管で一緒に流す「合流式」、汚水と雨水を別々の管で流す「分流式」がある。



合流式下水道

汚水と雨水を
いっしょに



水処理センターで処理します

分流式下水道



雨水は

川や海に流します

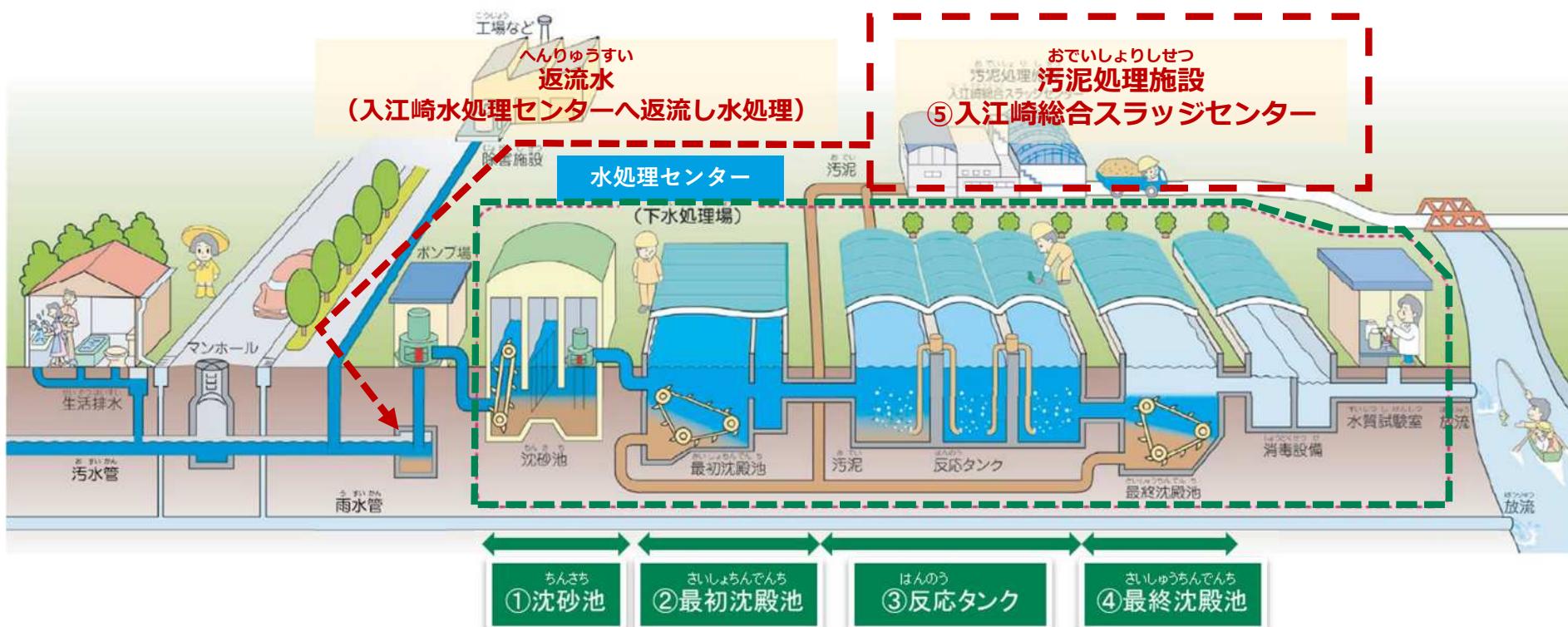


下水道の役割

水処理センターでの水処理のしくみ

- ①沈砂池
- ②最初沈殿池
- ③反応タンク
- ④最終沈殿池
- ⑤汚泥処理施設

下水中に含まれる大きな土砂類を沈めてゴミを取り除く
固体物を沈殿させ、上澄み水は反応タンクへ、沈殿した汚泥は汚泥処理施設へ送る
汚水を分解してくれる微生物を加えて空気を吹き込み、さらに沈殿しやすい物質にする
反応タンクからの汚水を、汚泥と上澄み水とに分け、上澄み水を消毒設備へ送る
汚泥の濃縮・脱水・焼却処理を行う（詳細は次項）

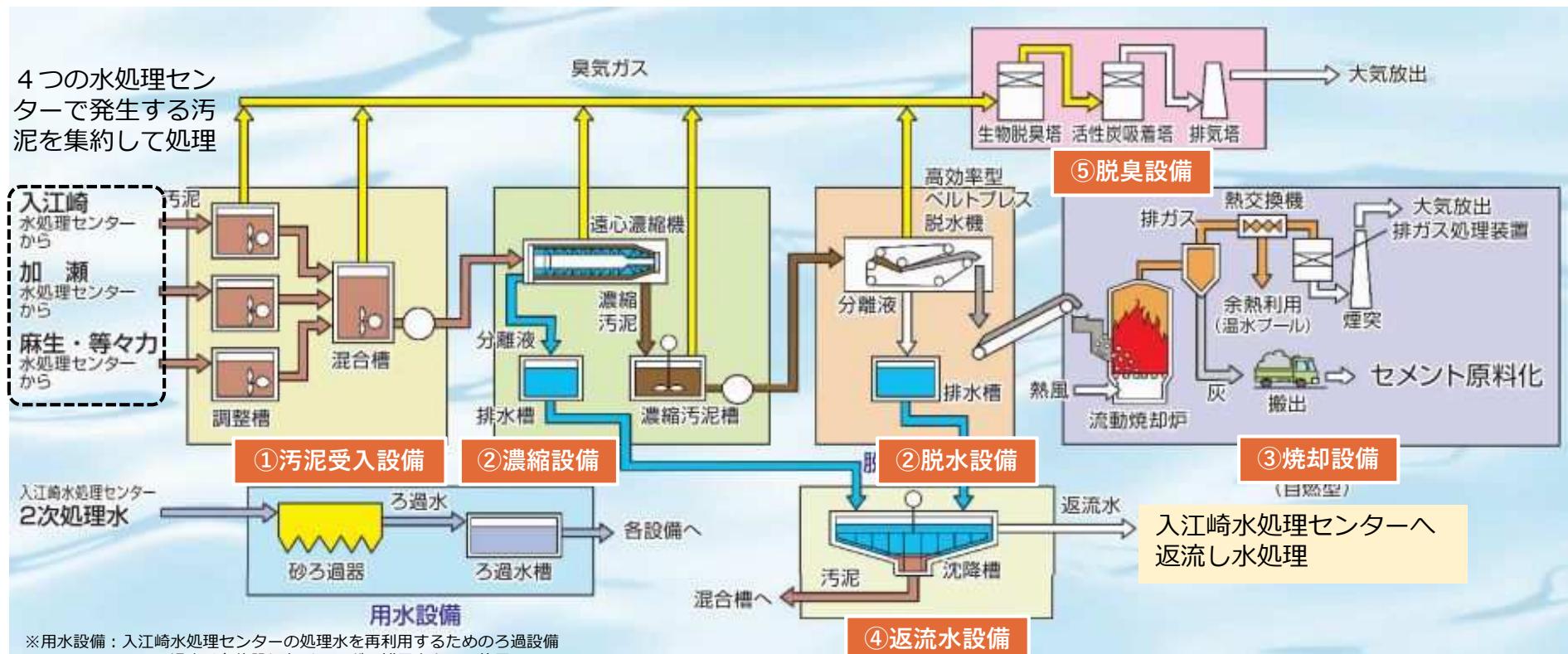


下水道の役割

入江崎総合スラッジセンターでの汚泥処理のしくみ

- ①汚泥受入設備
- ②濃縮・脱水設備
- ③焼却設備
- ④返流水設備
- ⑤脱臭設備

各水処理センターから圧送された汚泥を受け入れ、汚泥を均一に混合する
混合した汚泥を濃縮し、濃縮した汚泥をさらに脱水してケーキ状にする
脱水ケーキ状の汚泥を約850℃で焼却する。焼却灰はセメント原料として有効利用
濃縮設備、脱水設備及び焼却設備などからの排水を処理する
各設備から発生する臭気ガスを脱臭する



下水道の役割

下水道施設の概要



＜主な施設＞

- 水処理センター
- 汚泥処理施設
- ポンプ場
- 下水幹線
- 汚泥圧送管
- 雨水貯留管

- (下水を最終的に処理して河川や海域に放流する施設)
(水処理センターから発生する汚泥を集めて処理する施設)
(下水をポンプで汲みあげ、水処理センター等への汚水の送水、河川や海域に雨水を放流する施設)
(下水が集まり水処理センターまで流れる下水管の幹)
(水処理センターから発生する汚泥を汚泥処理施設まで圧送するための管)
(雨水流出量の増大や集中豪雨による浸水被害を防ぐため、雨水を一時的に貯留する施設)

施設概要	
水処理センター	4箇所
汚泥処理施設	1箇所
ポンプ場	19箇所
管きよ延長	約3,167 km

事業を取り巻く背景

大雨・台風

- 近年、気候変動の影響により雨の降り方が変化しており、全国的に局地的な大雨の発生回数が増加している。また、令和元（2019）年10月には、東日本の各地で観測史上最高の降雨量を更新する記録的な大雨をもたらした令和元年東日本台風が発生し、過去最高を記録した多摩川の水位の影響を受け、逆流した河川水や流れづらくなった雨水が溢れ、深刻な浸水被害が発生している。
- 近年の激甚化・頻発化する風水害に備え、浸水リスクの高い重点化地区などにおいて、効果的・効率的な浸水対策を進める必要がある。

大規模地震

- 日本は世界的に見ても地震による危険度が高く、近年では東日本大震災（2011年）、熊本地震（2016年）、北海道胆振東部地震（2018年）、能登半島地震（2024年）など大規模地震に見舞われ、下水道施設への被害が発生している。
- 今後想定される大規模地震に備え、被災時の市民生活への影響を最小限に抑えるため、被災時に必要となる下水道機能に重点化を図り、計画的かつ効率的に地震対策を進めていく必要がある。



東日本大震災
提供：岩手県久慈市



熊本地震
提供：熊本県益城町



北海道胆振東部地震
提供：札幌市

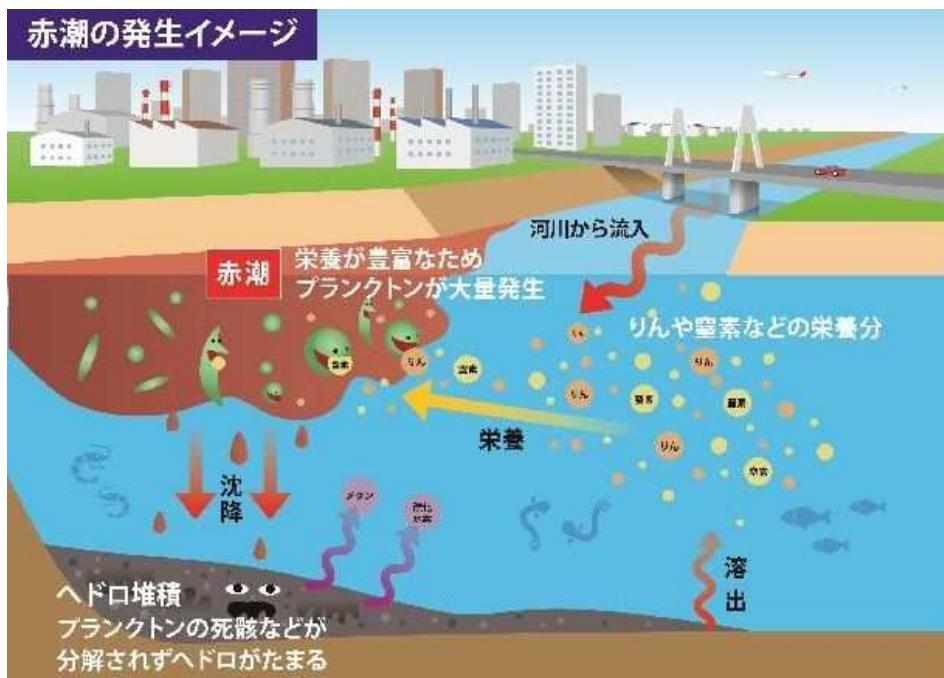


令和元年東日本台風
(川崎市中原区)

事業を取り巻く背景

水環境

- 下水道の普及により、川や海の水質は大幅に良くなり、水環境が改善されてきている一方、閉鎖性水域である東京湾では、“窒素”や“りん”などを原因とした富栄養化が進み、依然として赤潮被害による生態影響等が発生している。そのため、東京湾の流域自治体が連携し、富栄養化の原因物質の除去を目的とした高度処理を進めていく必要がある。
- 合流式下水道で整備された地域においては、雨天時に雨水と汚水の混合した下水の一部が、処理されずにポンプ場や雨水吐き口から公共用海域に放流される仕組みとなっており、雨天時の水質汚濁が懸念されている。合流式下水道については、放流水質の向上や河川への放流回数の削減など、合流式下水道の改善を進める必要がある。



	H15～21年	H22～28年	H29～R5年
赤潮発生回数	平均38回	平均29回	平均32回

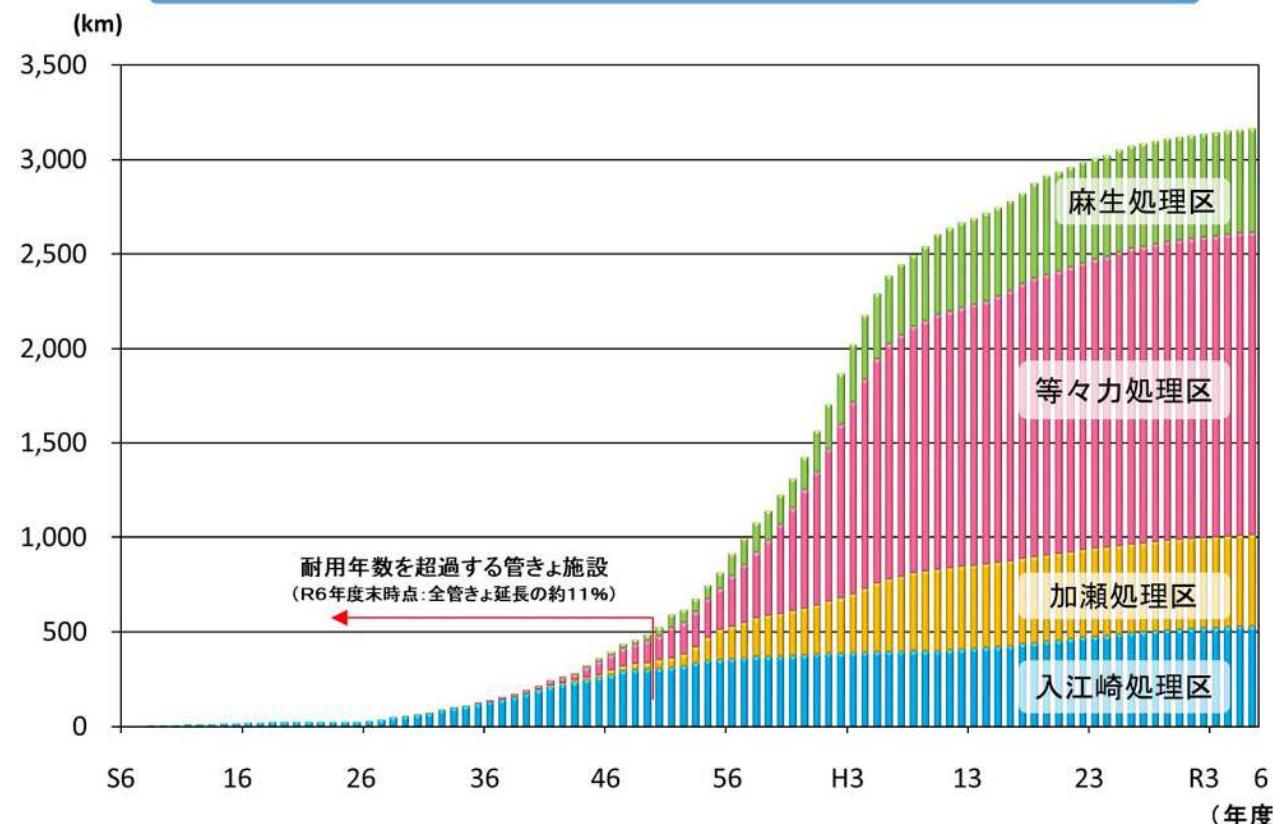
※千葉県・東京都・神奈川県の各々の地先海域における年間発生回数の合算値
出展元：R5東京湾水質調査報告書（R7.3 東京湾自治体環境保全会議）

事業を取り巻く背景

下水道の管きょ・施設の状況

- 下水管きょについては、昭和6年から整備を開始し、さらに昭和50年代から平成初期に集中的に整備を進め、管きょ総延長は令和6（2024）年度末で約3,160kmとなっている。今後、耐用年数50年を経過する管きょが急増する。また、水処理センター・ポンプ場についても、供用開始から80年以上経過している施設もあり、老朽化に伴う故障発生による機能停止リスクが高まっている。
- 老朽化施設や故障発生が増加傾向にあることから、より的確に施設の状態把握を行うとともに、リスクを踏まえた機能維持を図るなど、計画的な老朽化対策を進めていく必要がある。

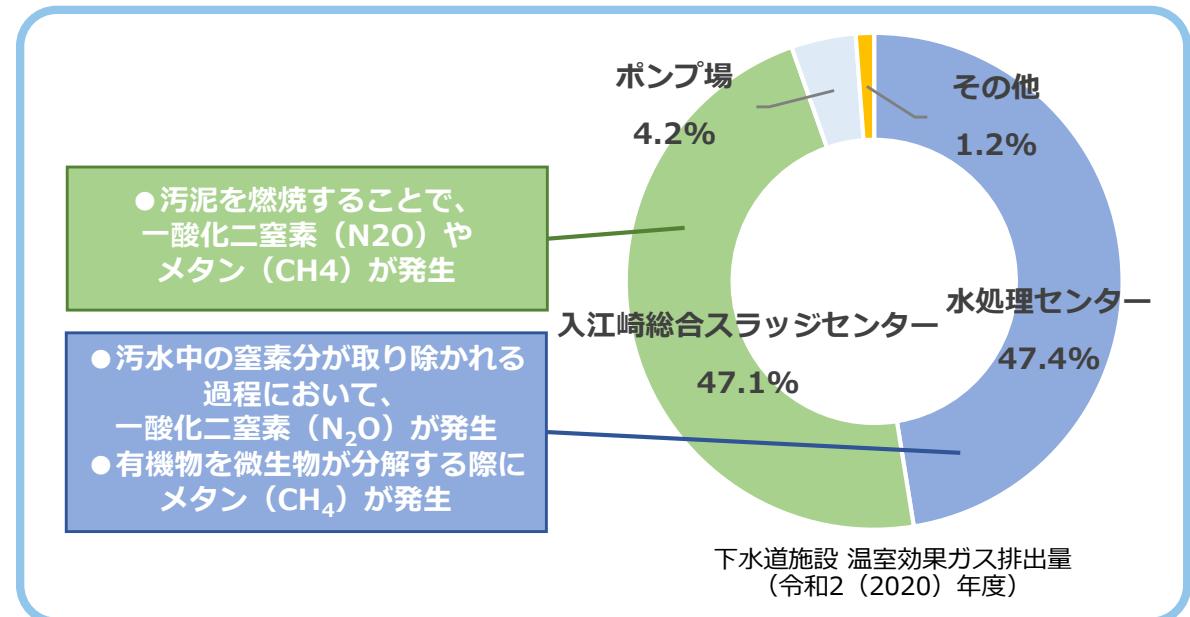
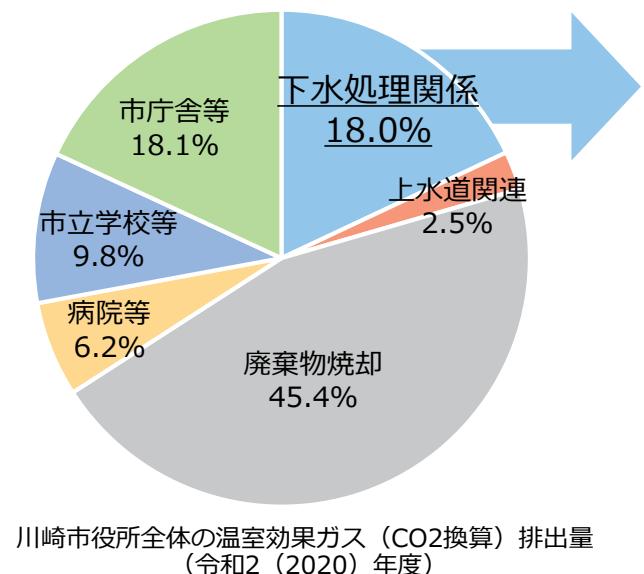
下水管きょの年度別累計延長の推移（令和6（2024）年度末）



事業を取り巻く背景

脱炭素社会の実現に向けた取組

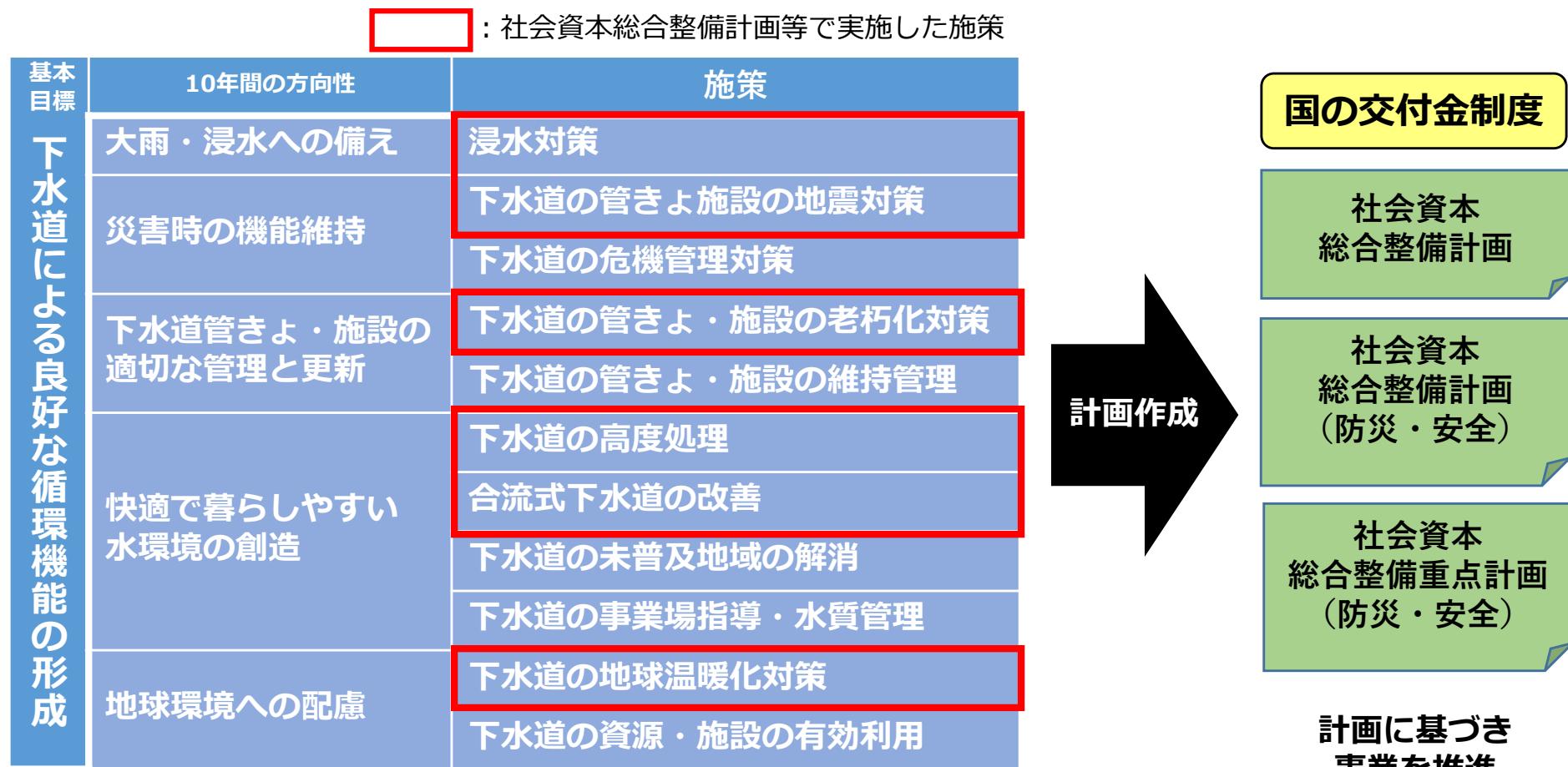
- 気候変動の脅威に対して世界的に対応を強化することを目的として締約されたパリ協定(2015年12月採択)の枠組みの下、国は、令和2(2020)年10月に、2050年までに温室効果ガスの排出を全体として実質ゼロにする、2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言。本市においても、2050年の脱炭素社会の実現に向けて、脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」を令和2(2020)年11月に策定。
- 本市上下水道事業は、多くの電力を消費し、排出する温室効果ガスの排出量は川崎市役所の総排出量の約20.5%（令和2（2020）年度）を占め、水処理・汚泥処理に伴い発生する一酸化二窒素（N₂O）やメタン（CH₄）はそれぞれ二酸化炭素（CO₂）の約300倍、約28倍もの温室効果を持っていることから、積極的に脱炭素社会の実現に向けた[地球温暖化対策](#)の取組を進める必要がある。



計画の概要

社会资本総合整備計画等の策定

- 本市の上下水道事業中期計画に位置付けられた施策の推進に向け、国の交付金制度を活用するため、該当の交付金要綱に定められた社会资本総合整備計画等を作成。



川崎市上下水道事業中期計画（2022～2025）より抜粋

計画の概要

計画の名称と主な対象事業

- **川崎市公共下水道 社会資本総合整備計画**
対象事業（高度処理）
- **川崎市公共下水道 社会資本総合整備計画（防災・安全）**
対象事業（浸水対策、地震対策、老朽化対策、地球温暖化対策）
- **川崎市公共下水道 社会資本総合整備重点計画（防災・安全）**
対象事業（浸水対策、地震対策、合流式下水道の改善）

計画の目標

- 下水道による良好な循環機能の形成

計画の期間

- 令和4年度～令和7年度

事業費

- **川崎市公共下水道 社会資本総合整備計画**
当初：120億6,000万円 評価時：120億6,000万円
- **川崎市公共下水道 社会資本総合整備計画（防災・安全）**
当初：404億2,900万円 評価時：459億600万円（※要素事業の変更・追加）
- **川崎市公共下水道 社会資本総合整備重点計画（防災・安全）**
当初：118億9,600万円 評価時：149億1,800万円（※要素事業の変更・追加）

計画の概要

計画の成果指標

※ 計画書に記載の見込値ではなく、実績値を示す

No.	成果指標名	当初現況値 (R3)	最終目標値 (R7)	計画	計画 (防災)	重点 (防災)
1	浸水対策実施率	26.4% ※	40.8%		●	●
2	排水樋管周辺地域の浸水対策累計実施数	5対策 ※	7対策		●	
3	水処理センター・ポンプ場の耐水化率	50.0%	83.3%		●	●
4	避難所や重要な医療機関と水処理センターとを結ぶ重要な管きよの耐震化率	66.2%	89.0%		●	
5	重要な管きよの耐震化率	87.0%	89.7%		●	
6	水処理センターの揚水機能確保率	75.0%	100%		●	●
7	ポンプ場の汚水揚水機能確保率	54.5%	100%		●	●
8	水処理センターの消毒機能確保率	50.0%	50.0%			●
9	下水道施設の燃料貯蔵容量確保率	0%	16.7%		●	●
10	汚泥圧送管の再整備率	12.5%	25.0%		●	
11	高度処理普及率	59.3%	100%	●		
12	合流式下水道改善率	73.5%	100%			●
13	温室効果ガス排出量の削減割合（2013年度比）	15.9% ※	27.7%		●	

【対象計画の凡例】

計画 = 社会資本総合整備計画

計画（防災） = 社会資本総合整備計画（防災・安全）

重点（防災） = 社会資本総合整備重点計画（防災・安全）

要素事業の計画内容

浸水対策(重点化地区における対策)

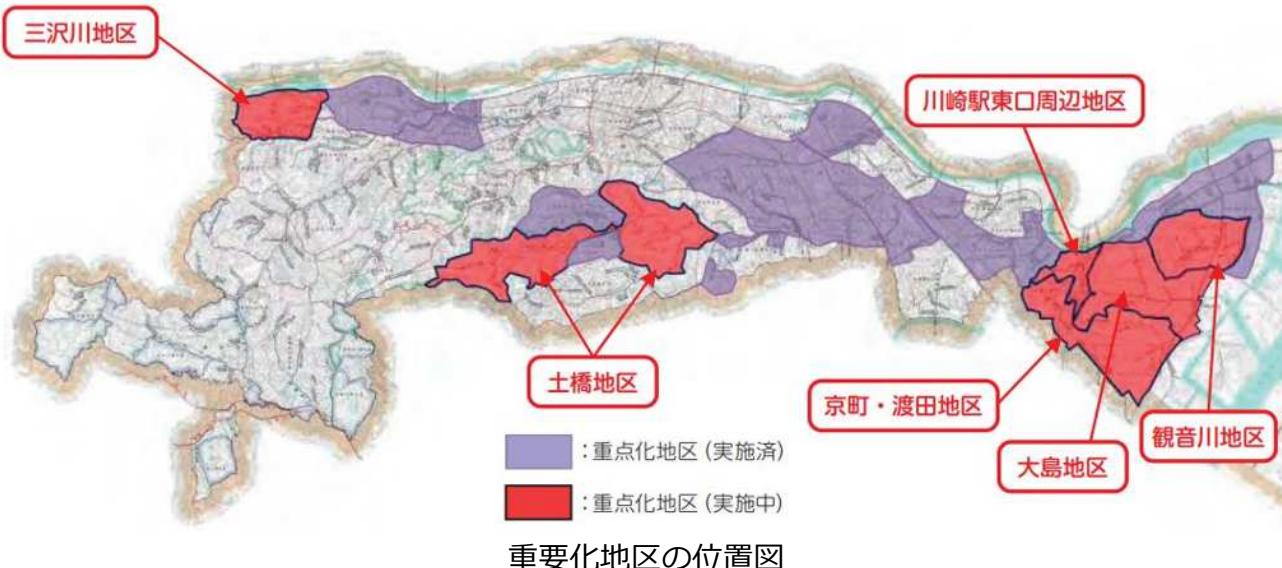
成果指標No.1

【概要】

重点化地区に位置付けた、**浸水リスクの高い地区**（三沢川地区、土橋地区、川崎駅東口周辺地区）における対策の推進

【本計画期間における取組内容】

- ・三沢川地区、土橋地区における**雨水管の整備**
- ・川崎駅東口周辺地区における**浸水対策の検討**



重点化地区とは

- ・市内全域を対象に実施した浸水シミュレーションの結果から、浸水被害の大きさと起こりやすさに着目し、概ね排水区単位で浸水リスクを評価した結果、比較的浸水リスクが高いことが確認された、三沢川地区、土橋地区、京町・渡田地区、川崎駅東口周辺地区、大島地区、観音川地区の6地区



雨水管の整備（開削工法）



雨水管の整備（推進工法）

要素事業の計画内容

浸水対策(排水樋管周辺地域における対策)

成果指標No.2

【概要】

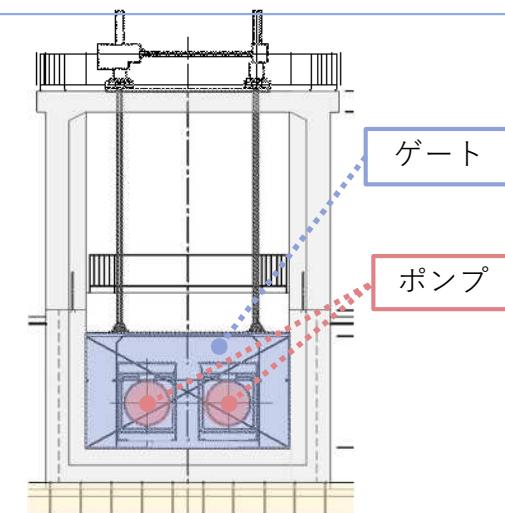
多摩川の水位上昇に伴う逆流防止と、**多摩川への雨水排水を同時に実施することができる、ポンプゲート設備による対策（中期対策）**の推進（宮内・諏訪・二子・宇奈根）

【本計画期間における取組内容】

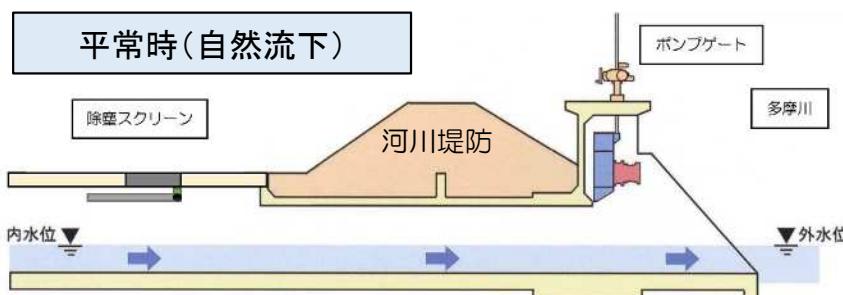
宮内・諏訪・二子・宇奈根排水樋管におけるゲート設備等の整備



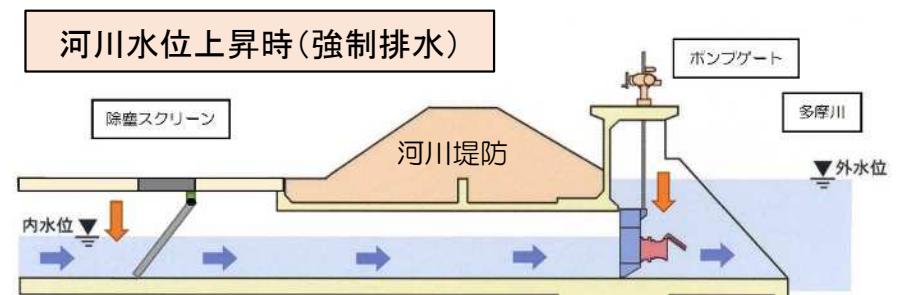
令和元年東日本台風により浸水被害が発生した排水樋管周辺地域の位置図



ポンプゲート



平常時(自然流下)



河川水位上昇時(強制排水)

ポンプゲートの運用のイメージ

要素事業の計画内容

浸水対策(水処理センター・ポンプ場の耐水化)

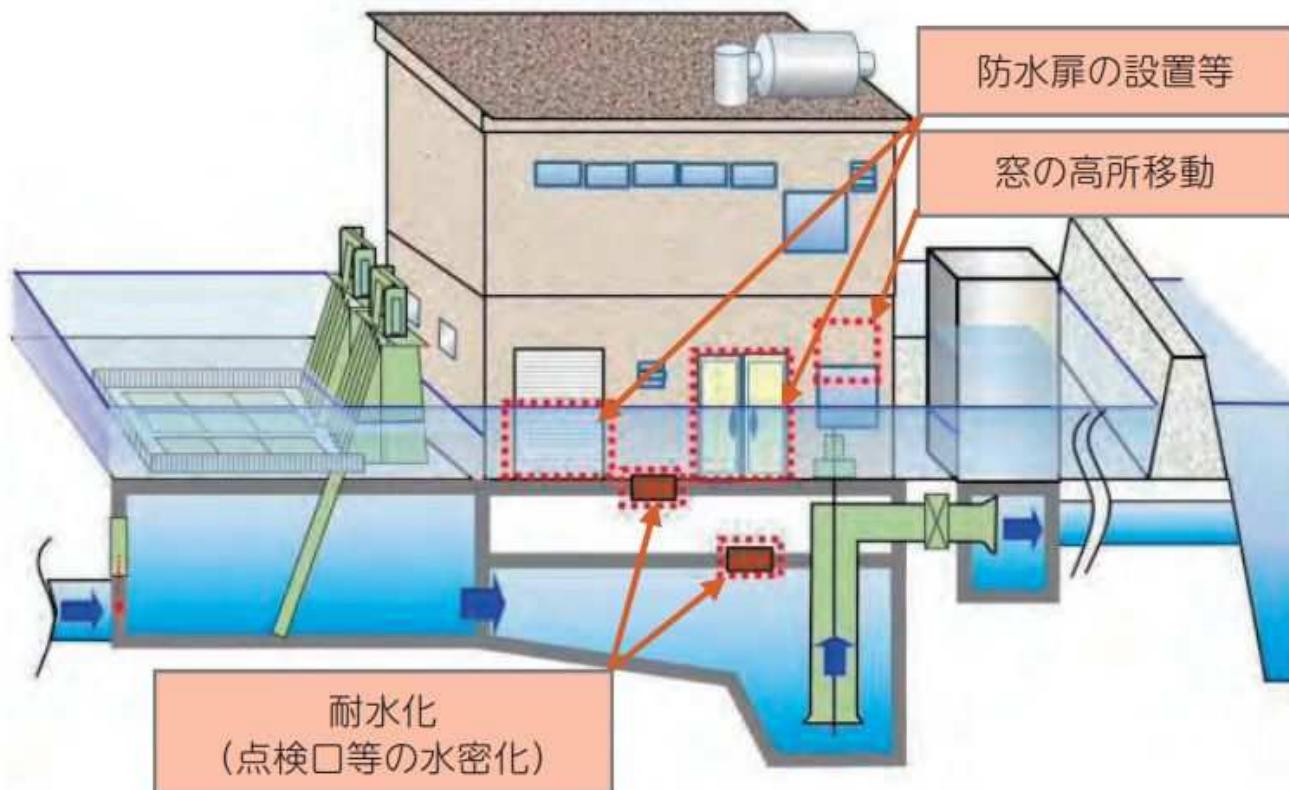
成果指標No.3

【概要】

中高頻度の降雨による洪水や、既往最大降雨による内水などが原因で発生する浸水に対して**機能を維持できるよう、防水扉の設置等の推進**

【本計画期間における取組内容】

江川・戸手・加瀬・古市場・京町・登戸ポンプ場における**防水扉等の設置**



具体的な対策方法（イメージ）



防水扉



止水板

要素事業の計画内容

地震対策(重要な管きよの耐震化)

成果指標No.4 No.5

【概要】

耐震性のない重要な管きよのうち、**広域避難場所や地域防災拠点・避難所及び地域防災計画に位置付けられた重要な医療機関等と水処理センターとを結ぶ管きよの耐震化**の推進

【本計画期間における取組内容】

川崎駅以北における**広域避難場所や地域防災拠点・避難所及び地域防災計画に位置付けられた重要な医療機関等と水処理センターとを結ぶ管きよの耐震化**



重要な管きよとは

- ・ 地域防災計画に位置付けられた市立小・中学校などの避難所や災害拠点病院などの重要な医療機関等と水処理センターとを結ぶ管きよ
- ・ 鉄道、河川、緊急輸送路（重要物流道路）の下の管きよ
- ・ その他、下水を流下収集させる機能面から見てシステムとして重要な管きよ



重要な管きよの耐震化
(上：耐震化前、下：耐震化後)

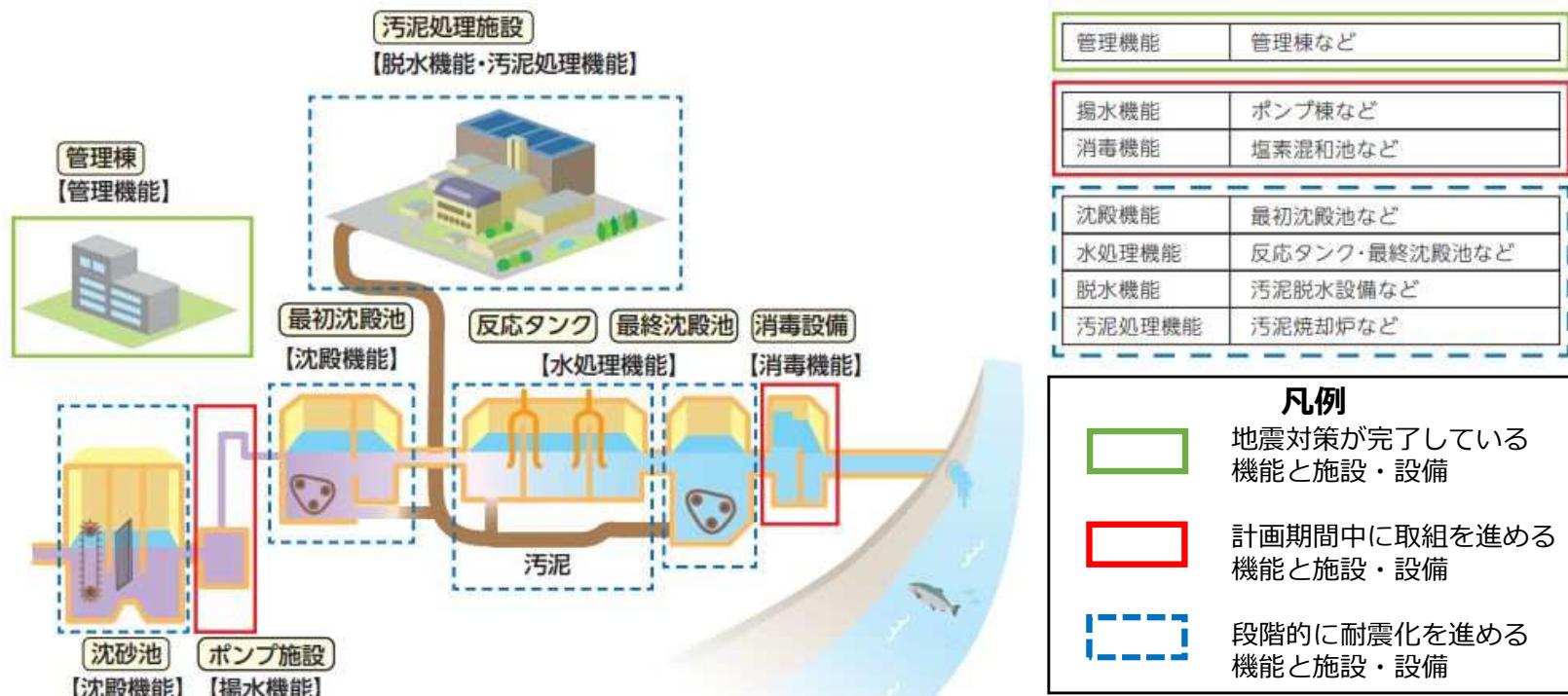
要素事業の計画内容

地震対策(水処理センター・ポンプ場の耐震化)

成果指標No.6 No.7 No.8

【概要】

- ・水処理センター・ポンプ場において、災害時にも汚水を揚水する機能を確保するため、揚水施設の耐震化の推進
 - ・水処理センターにおいて、災害時にも汚水を消毒する機能を確保するため、消毒施設の耐震化の推進
- 【本計画期間における取組内容】
- ・大島、小向、丸子ポンプ場における汚水揚水機能確保に向けた汚水ポンプ棟の耐震補強等
 - ・麻生水処理センターにおける揚水機能確保に向けたポンプ棟の耐震補強等
 - ・入江崎水処理センターにおける消毒機能確保に向けた躯体の改築



水処理センターの地震対策

要素事業の計画内容

地震対策(燃料貯蔵容量の確保)

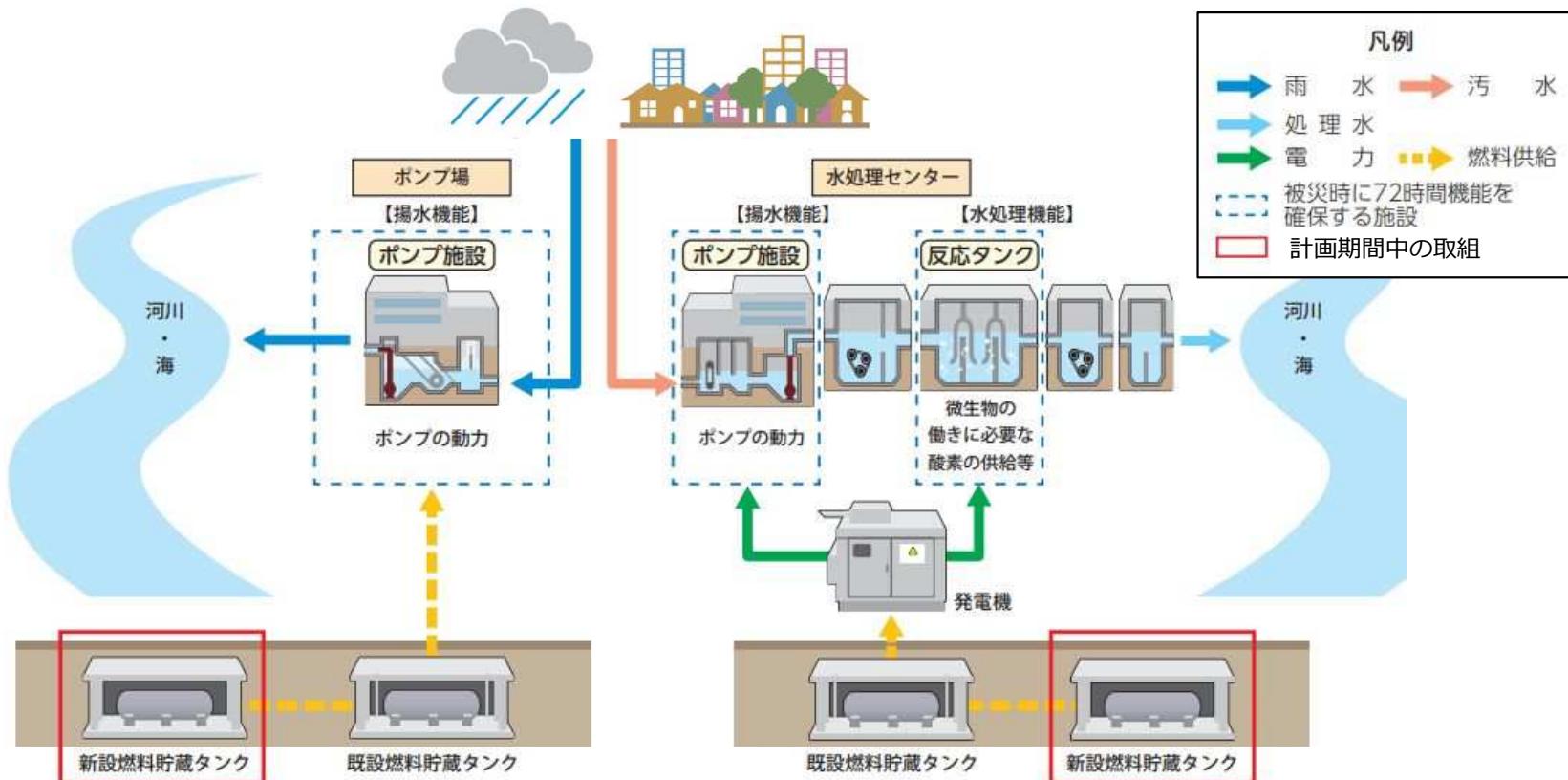
成果指標No.9

【概要】

停電時においても施設を稼働させ続けることができるよう、**自家発電設備や雨水ポンプで使用する燃料の十分な貯蔵容量確保**の推進

【本計画期間における取組内容】

入江崎・麻生水処理センター、丸子・江川ポンプ場における**燃料タンクの改築ほか**



燃料貯蔵容量の確保

要素事業の計画内容

老朽化対策

成果指標No.10

【概要】

下水道サービスを安定して提供し続けるため、急増する**老朽化した管きょ・施設の計画的な再整備・再構築の推進**

【本計画期間における取組内容】

- ・老朽化した汚泥圧送管の改築（等々力水処理センター～戸手ポンプ場間）
- ・水処理センターにおける反応タンク設備や監視制御設備などの改築（入江崎水処理センターほか）
- ・ポンプ場におけるゲート設備や雨水ポンプ設備などの改築（大師河原ポンプ場ほか）



渡田ポンプ場の再構築事業（左再構築状況、右：完成イメージ）



劣化により破損した汚泥圧送管



更新

老朽化したポンプ設備の更新

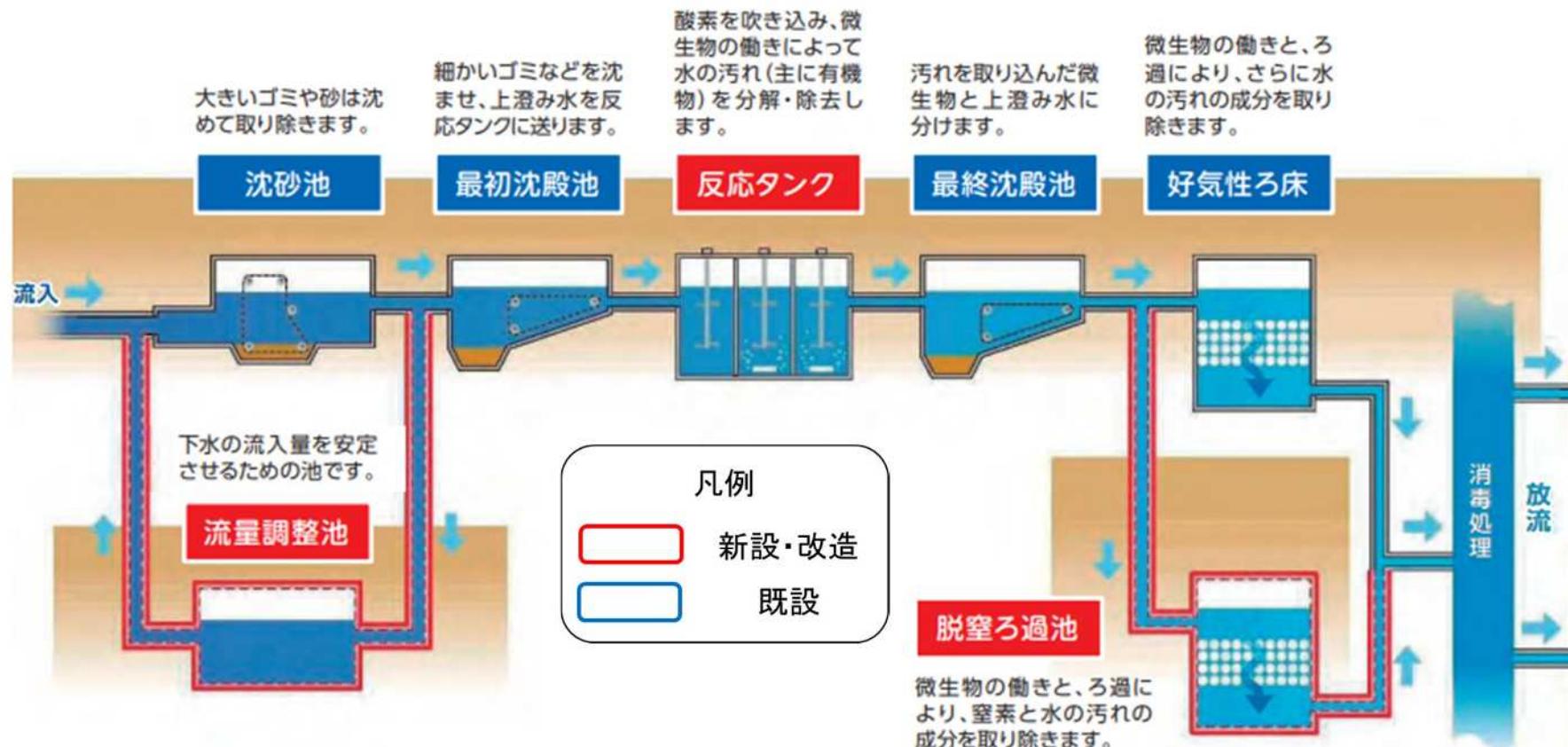
要素事業の計画内容

高度処理(水処理センターの高度処理化)

成果指標No.11

【概要】

等々力水処理センターにおける、流量調整池・既設反応タンクの改造・脱窒ろ過池の整備の推進



等々力水処理センターにおける高度処理の仕組み

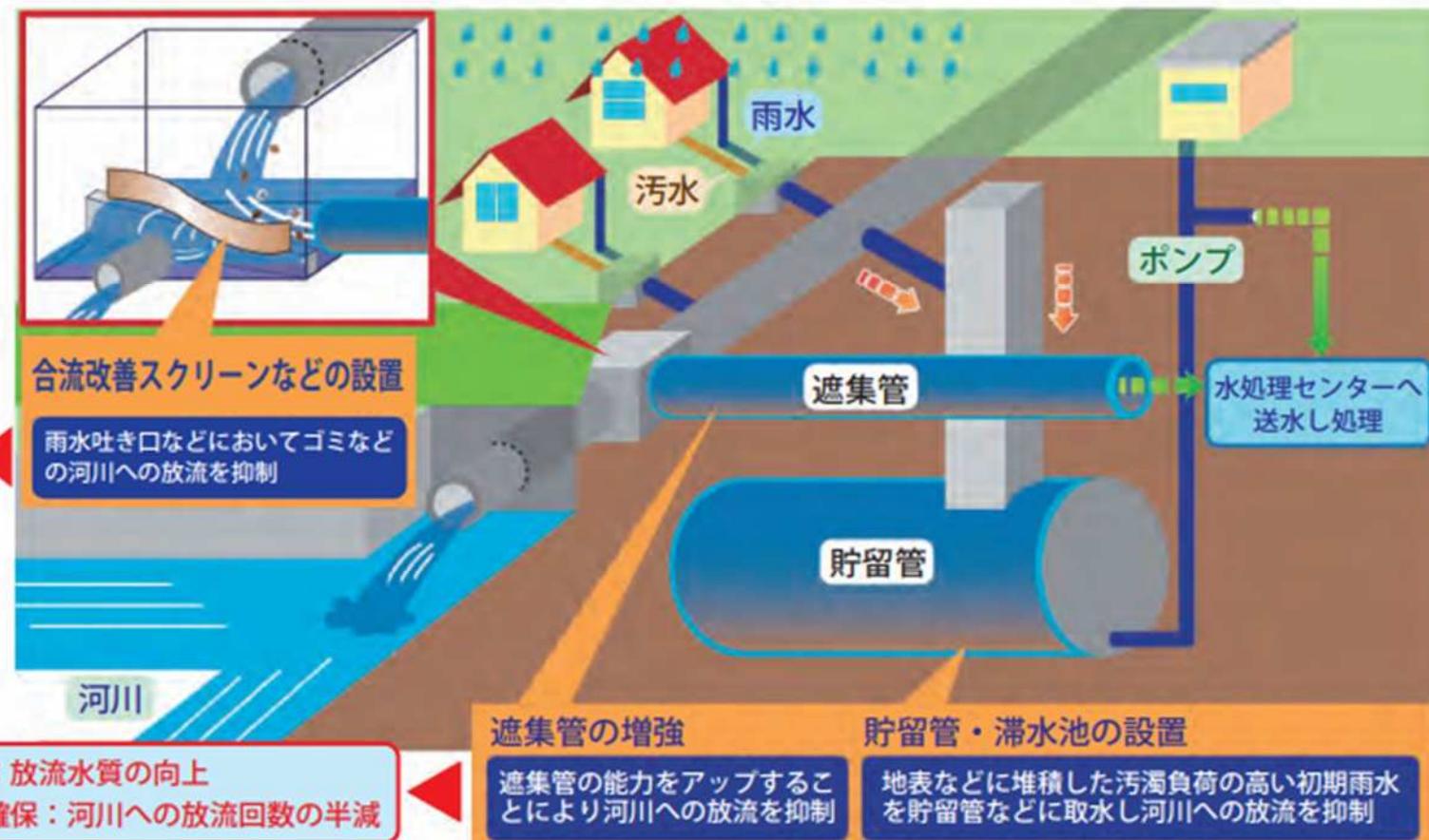
要素事業の計画内容

合流式下水道の改善

成果指標No.12

【概要】

合流式下水道区域における、河川への放流回数の削減に向けた**六郷遮集幹線の整備**や**大師河原貯留管**を合流改善対策施設として活用するための**大師河原ポンプ場の改築**の推進



要素事業の計画内容

地球温暖化対策

成果指標No.13

【概要】

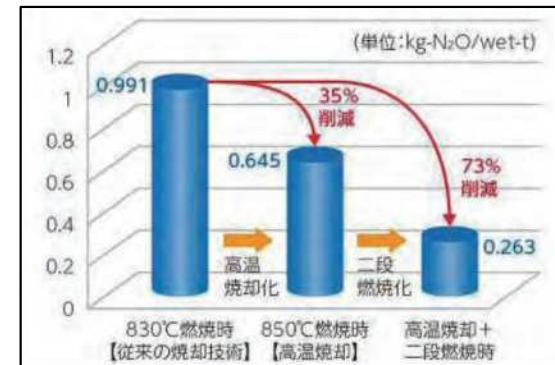
市内4か所の水処理センターから発生する汚泥を受け入れ、焼却処理を行っている入江崎総合スラッジセンター1系焼却炉の再構築などに合わせた温室効果ガス削減の取組の推進

【本計画期間における取組内容】

- ・水処理センターやポンプ場設備の更新に合わせた高効率機器・省エネルギー機器の導入
- ・入江崎総合スラッジセンターにおける高温焼却化や二段燃焼化などによる温室効果ガスの削減



〈二段燃焼化〉
該当する技術を導入することで既設焼却炉より小さな温室効果ガス排出係数が適用可能になり
温室効果ガスの削減に寄与
〈濃縮脱水一体型機の採用〉
既設機器より運転にかかる電力を削減することが可能となり、温室効果ガスの削減に寄与



二段燃焼化の効果【焼却する汚泥(脱水汚泥)
1tあたりのN₂O排出量の比較】



入江崎総合スラッジセンター (平面図)

要素事業の進捗状況

浸水対策(重点化地区における対策)

計画	番号	事業箇所	事業内容 【関連する指標】	計画期間(年度)				備考
				R4	R5	R6	R7	
計画(防災) 重点(防災)	A07-008 A07-007	三沢川地区(浸水対策)	雨水管整備 L=2,020m 【成果指標No.1】	■	■	■	■	継続 (R11年度以降完成予定)
計画(防災) 重点(防災)	A07-009 A07-008	土橋地区(浸水対策)	雨水管整備 L=2,733m 【成果指標No.1】	■	■	■	■	完成見込み
計画(防災) 重点(防災)	A07-010 A07-009	川崎駅東口周辺地区等	浸水対策検討 【成果指標No.1】	■	■	■	■	継続 (R11年度以降完成予定)

浸水対策(排水樋管周辺地域における対策)

計画	番号	事業箇所	事業内容 【関連する指標】	計画期間(年度)				備考
				R4	R5	R6	R7	
計画(防災)	A07-011	排水樋管	遠隔操作設備等の設置 【成果指標No.2】	■	■	■	■	完成
計画(防災)	A07-018	宮内排水区	ゲート設備等の整備 【成果指標No.2】	■	■	■	■	継続 (R9年度完成予定)
計画(防災)	A07-019	六ヶ村堀排水区	ゲート設備等の整備 【成果指標No.2】	■	■	■	■	継続 (R9年度完成予定)
計画(防災)	A07-020	二子排水区	ゲート設備等の整備 【成果指標No.2】	■	■	■	■	継続 (R9年度完成予定)
計画(防災)	A07-021	堰排水区	ゲート設備等の整備 【成果指標No.2】	■	■	■	■	継続 (R9年度完成予定)
計画(防災)	A07-022	宿河原排水区	ゲート設備の整備	■	■	■	■	完成

※1 対象計画の凡例

計画 = 社会資本総合整備計画

計画(防災) = 社会資本総合整備計画(防災・安全)

重点(防災) = 社会資本総合整備重点計画(防災・安全)

※2 備考欄「継続」は、当初計画通り継続する要素事業であることを意味する

要素事業の進捗状況

浸水対策(水処理センター・ポンプ場の耐水化)

計画	番号	事業箇所	事業内容 【関連する指標】	計画期間(年度)				備考
				R4	R5	R6	R7	
計画(防災) 重点(防災)	A07-012 A07-010	江川ポンプ場(耐水化)	防水扉等の設置 【成果指標No.3】	■	■	■	■	完成
計画(防災) 重点(防災)	A07-013 A07-011	戸手ポンプ場(耐水化)	防水扉等の設置 【成果指標No.3】	■	■	■	■	完成
計画(防災) 重点(防災)	A07-014 A07-012	加瀬ポンプ場(耐水化)	防水扉等の設置 【成果指標No.3】	■	■	■	■	計画見直しにより不要
計画(防災) 重点(防災)	A07-015 A07-013	古市場ポンプ場(耐水化)	防水扉等の設置 【成果指標No.3】	■	■	■	■	継続 (R9年度完成予定)
計画(防災) 重点(防災)	A07-016 A07-014	京町ポンプ場(耐水化)	防水扉等の設置 【成果指標No.3】	■	■	■	■	完成見込み
計画(防災) 重点(防災)	A07-017 A07-015	登戸ポンプ場(耐水化)	防水扉等の設置 【成果指標No.3】	■	■	■	■	継続 (R9年度完成予定)

地震対策(重要な管きよの耐震化)

計画	番号	事業箇所	事業内容 【関連する指標】	計画期間(年度)				備考
				R4	R5	R6	R7	
計画(防災)	A07-001	防災拠点等接続管(地震対策)	耐震化 L=24,000m 【成果指標No.4 No.5】	■	■	■	■	継続 (R11年度以降完成予定)
計画(防災)	A07-002	緊急輸送路埋設管(地震対策)	耐震化 L=5,960m 【成果指標No.5】	■	■	■	■	継続 (R11年度以降完成予定)
計画(防災)	A07-003	麻生汚泥圧送管等(地震対策)	汚泥圧送管の二条化	■	■	■	■	継続 (R8年度完成予定)

※1 対象計画の凡例

計画 = 社会資本総合整備計画

計画(防災) = 社会資本総合整備計画(防災・安全)

重点(防災) = 社会資本総合整備重点計画(防災・安全)

※2 備考欄「継続」は、当初計画通り継続する要素事業であることを意味する

要素事業の進捗状況

地震対策(水処理センター・ポンプ場の耐震化)

計画	番号	事業箇所	事業内容 【関連する指標】	計画期間(年度)				備考
				R4	R5	R6	R7	
計画(防災) 重点(防災)	A07-004 A07-003	大島ポンプ場(地震対策)	污水ポンプ棟耐震補強等 【成果指標No.7】	■	■	■	■	完成見込み
計画(防災) 重点(防災)	A07-005 A07-004	小向ポンプ場(地震対策)	污水ポンプ棟耐震補強等 【成果指標No.7】	■	■	■	■	完成見込み
計画(防災) 重点(防災)	A07-006 A07-005	丸子ポンプ場(地震対策)	污水ポンプ棟耐震補強等 【成果指標No.7】	■	■	■	■	完成見込み
計画(防災)	A07-007	麻生水処理センター(地震対策)	ポンプ棟耐震補強等 【成果指標No.6】	■	■	■	■	完成
重点(防災)	A07-016	入江崎水処理センター地震時機能停止リスク低減対策	躯体の改築 【成果指標No.8】	■	■	■	■	継続 (R11年度以降完成予定)

地震対策(燃料貯蔵容量の確保)

計画	番号	事業箇所	事業内容 【関連する指標】	計画期間(年度)				備考
				R4	R5	R6	R7	
計画(防災)	A07-044	踊場ポンプ場地震時機能停止リスク低減対策	自家発電設備の改築ほか 【成果指標No.9】	■	■	■	■	入札の不調により 遅延が生じたため継続 (R8年度完成予定)
重点(防災)	A07-006	麻生水処理センター(地震対策)	ポンプ棟耐震補強等 【成果指標No.9】	■	■	■	■	入札の不調により 遅延が生じたため継続 (R8年度完成予定)
重点(防災)	A07-017	入江崎水処理センター地震時機能停止リスク低減対策	燃料タンクの改築ほか 【成果指標No.9】	■	■	■	■	完成
重点(防災)	A07-018	麻生水処理センター地震時機能停止リスク低減対策	燃料タンクの改築ほか 【成果指標No.9】	■	■	■	■	継続 (R8年度完成予定)
重点(防災)	A07-019	丸子ポンプ場地震時機能停止リスク低減対策	燃料タンクの改築ほか 【成果指標No.9】	■	■	■	■	継続 (R11年度以降完成予定)
重点(防災)	A07-020	江川ポンプ場地震時機能停止リスク低減対策	燃料タンクの改築ほか 【成果指標No.9】	■	■	■	■	完成

※1 対象計画の凡例

計画 = 社会資本総合整備計画

計画(防災) = 社会資本総合整備計画(防災・安全)

重点(防災) = 社会資本総合整備重点計画(防災・安全)

※2 備考欄「継続」は、当初計画通り継続する要素事業であることを意味する

要素事業の進捗状況

老朽化対策(地球温暖化対策含む)

計画	番号	事業箇所	事業内容 【関連する指標】	計画期間(年度)				備考
				R4	R5	R6	R7	
計画(防災)	A07-023	入江崎水処理センター地震時機能停止リスク低減対策	反応タンク設備の改築ほか 【成果指標No.13】	■	■	■	■	完成
計画(防災)	A07-024	加瀬水処理センター地震時機能停止リスク低減対策	反応タンク設備の改築ほか 【成果指標No.13】	■	■	■	■	完成見込み
計画(防災)	A07-025	等々力水処理センター地震時機能停止リスク低減対策	監視制御設備の改築、汚泥圧送管の改築ほか 【成果指標No.10 No.13】	■	■	■	■	完成
計画(防災)	A07-026	麻生水処理センター地震時機能停止リスク低減対策	計測設備の改築ほか 【成果指標No.13】	■	■	■	■	継続 (R11年度完成予定)
計画(防災)	A07-027	入江崎総合スラッジセンター地震時機能停止リスク低減対策	汚泥焼却・溶融設備の改築ほか 【成果指標No.13】	■	■	■	■	継続 (R11年度完成予定)
計画(防災)	A07-028	大師河原ポンプ場地震時機能停止リスク低減対策	ゲート設備の改築ほか 【成果指標No.13】	■	■	■	■	完成
計画(防災)	A07-029	古市場ポンプ場地震時機能停止リスク低減対策	スクリーンかす設備の改築ほか 【成果指標No.13】	■	■	■	■	完成
計画(防災)	A07-030	戸手ポンプ場地震時機能停止リスク低減対策	受変電設備の改築ほか 【成果指標No.13】	■	■	■	■	継続 (R11年度完成予定)
計画(防災)	A07-031	大島ポンプ場地震時機能停止リスク低減対策	監視制御設備の改築ほか 【成果指標No.13】	■	■	■	■	継続 (R11年度完成予定)
計画(防災)	A07-032	観音川ポンプ場地震時機能停止リスク低減対策	雨水ポンプ設備の改築ほか 【成果指標No.13】	■	■	■	■	継続 (R11年度完成予定)
計画(防災)	A07-033	観音川雨水滞水池地震時機能停止リスク低減対策	自家発電設備の改築ほか 【成果指標No.13】	■	■	■	■	継続 (R11年度完成予定)
計画(防災)	A07-034	渡田ポンプ場地震時機能停止リスク低減対策	躯体の改築	■	■	■	■	継続 (R9年度完成予定)

※1 対象計画の凡例

計画 = 社会資本総合整備計画

計画(防災) = 社会資本総合整備計画(防災・安全)

重点(防災) = 社会資本総合整備重点計画(防災・安全)

※2 備考欄「継続」は、当初計画通り継続する要素事業であることを意味する

要素事業の進捗状況

老朽化対策(地球温暖化対策含む)

計画	番号	事業箇所	事業内容 【関連する指標】	計画期間（年度）				備考
				R4	R5	R6	R7	
計画（防災）	A07-035	渡田雨水滞水池地震時機能停止リスク低減対策	制御電源及び計装用電源設備の改築ほか 【成果指標No.13】	■	■	■	■	継続 (R11年度完成予定)
計画（防災）	A07-036	京町ポンプ場地震時機能停止リスク低減対策	自家発電設備の改築ほか 【成果指標No.13】	■	■	■	■	完成
計画（防災）	A07-037	京町雨水滞水池地震時機能停止リスク低減対策	制御電源及び計装用電源設備の改築ほか 【成果指標No.13】	■	■	■	■	完成見込み
計画（防災）	A07-038	加瀬ポンプ場地震時機能停止リスク低減対策	雨水ポンプ設備の改築ほか 【成果指標No.13】	■	■	■	■	継続 (R11年度完成予定)
計画（防災）	A07-039	丸子ポンプ場地震時機能停止リスク低減対策	雨水ポンプ設備の改築ほか 【成果指標No.13】	■	■	■	■	継続 (R11年度完成予定)
計画（防災）	A07-040	江川ポンプ場地震時機能停止リスク低減対策	雨水ポンプ設備の改築ほか 【成果指標No.13】	■	■	■	■	完成
計画（防災）	A07-041	渋川ポンプ場地震時機能停止リスク低減対策	制御電源及び計装用電源設備の改築ほか 【成果指標No.13】	■	■	■	■	継続 (R11年度完成予定)
計画（防災）	A07-042	等々力ポンプ場地震時機能停止リスク低減対策	雨水ポンプ設備の改築ほか 【成果指標No.13】	■	■	■	■	完成見込み
計画（防災）	A07-043	登戸ポンプ場地震時機能停止リスク低減対策	計測設備の改築 【成果指標No.13】	■	■	■	■	継続 (R11年度完成予定)
計画（防災）	A07-045	高石中継ポンプ場地震時機能停止リスク低減対策	計測設備の改築 【成果指標No.13】	■	■	■	■	継続 (R11年度完成予定)
計画（防災）	A07-046	広域ネットワーク	通信線（光ケーブル）の改築	■	■	■	■	完成

※1 対象計画の凡例

計画 = 社会資本総合整備計画

計画（防災） = 社会資本総合整備計画（防災・安全）

重点（防災） = 社会資本総合整備重点計画（防災・安全）

※2 備考欄「継続」は、当初計画通り継続する要素事業であることを意味する

要素事業の進捗状況

高度処理(水処理センターの高度処理化)

計画	番号	事業箇所	事業内容 【関連する指標】	計画期間（年度）				備考
				R4	R5	R6	R7	
計画	A07-001	等々力水処理センター（高度処理）	流量調整池、脱窒ろ過池等の新設・改造 【成果指標No.11】	■	■	■	■	完成見込み

合流式下水道の改善

計画	番号	事業箇所	事業内容 【関連する指標】	計画期間（年度）				備考
				R4	R5	R6	R7	
重点（防災）	A07-001	六郷遮集幹線（合流改善）	遮集管整備 L=2,100m 【成果指標No.12】	■	■			支障埋設物の移設等に 時間を要したことにより 遅延が生じたため継続 (R8年度完成予定)
重点（防災）	A07-002	大師河原・大師臨港地区（合流改善）	大師河原送水ポンプ棟等の改築 【成果指標No.12】	■	■			完成

※1 対象計画の凡例
計画 = 社会資本総合整備計画
計画（防災） = 社会資本総合整備計画（防災・安全）
重点（防災） = 社会資本総合整備重点計画（防災・安全）

評価指標の達成状況

成果指標No.1:浸水対策実施率

定義

重点化地区（三沢川、土橋、京町・渡田、川崎駅東口周辺、大島、観音川地区）において、浸水対策が完了した面積の割合

算定式

重点化地区の浸水対策完了済面積／浸水対策重点化地区対象面積 ×100 (%)

達成状況

現況値 (R3)	目標値 (R7)	実績値 (見込)	目標達成状況
26.4% (543 / 2,054 ha × 100)	40.8%	40.8% (837.6 / 2,054 ha × 100)	達成 (見込)

※R4～R7の進捗(見込) : +294.6 ha

達成状況に対する所見

三沢川地区、土橋地区において管きよの整備を実施したほか、単費により京町・渡田地区の先行整備地区（小田3丁目地内）の工事を完了したことで、重点化地区の浸水対策が図られた。さらに、健全な水循環の形成に寄与する緑の保全や浸透対策に加え、関係部署と連携した大雨対策の啓発活動を進めるなど、着実に事業の推進が図られている。

評価指標の達成状況

成果指標No.2:排水樋管周辺地域の浸水対策累計実施数

定義

排水樋管周辺地域（山王、宮内、諏訪、二子、宇奈根地域）における短期対策（5対策）、当面の対策（2対策）、中期対策（4対策）（計11対策）の実施数

達成状況

現況値（R3）	目標値（R7）	実績値	目標達成状況
5対策	7対策	7対策	達成

※R4～R7の進捗：+2 対策

達成状況に対する所見

宮内、諏訪（六ヶ村堀排水区）、二子、宇奈根（堰排水区）排水樋管において、ポンプゲート設備による対策を推進したほか、市費による諏訪排水樋管周辺地域における既存仮排水所のポンプ能力の増強工事や、山王排水樋管周辺地域におけるバイパス管布設工事等を完了したこと、着実に事業の推進が図られている。

評価指標の達成状況

成果指標No.3:水処理センター・ポンプ場の耐水化率

定義

水処理センター・ポンプ場において、内水、外水などの浸水リスクを対象とした対策が完了した施設の割合

算定式

災害時の施設浸水に向けた対策が完了したポンプ場、水処理センター数
／ ポンプ場・水処理センター数 ×100 (%)

達成状況

現況値 (R3)	目標値 (R7)	実績値 (見込)	目標達成状況
50.0% (12 / 24箇所 × 100)	83.3%	83.3% (20 / 24箇所 × 100)	達成 (見込)

※R4～R7の進捗(見込)：+8 箇所

達成状況に対する所見

江川ポンプ場や戸手ポンプ場などにおいて防水扉の設置等や、古市場ポンプ場や登戸ポンプ場などにおいて洪水浸水想定深の変更に伴う耐水化計画の見直しを行い、8施設の耐水化が完了するなど、着実に事業の推進が図られている。

評価指標の達成状況

成果指標No.4:避難所や重要な医療機関と水処理センターとを結ぶ重要な管きよの耐震化率

定義

市内全域において、避難所や重要な医療機関と水処理センターとを結ぶ重要な管きよの地震対策が完了した延長の割合

算定式

$$\frac{\text{耐震化された重要な管きよ延長}}{\text{重要な管きよの総延長}} \times 100 \text{ (%)}$$

達成状況

現況値 (R3)	目標値 (R7)	実績値 (見込)	目標達成状況
66.2% (54.74 / 82.65 km × 100)	89.0%	89.0% (73.54 / 82.65 km × 100)	達成 (見込)

※R4～R7の進捗(見込) : +18.8 km

達成状況に対する所見

広域避難場所や地域防災拠点・避難所及び地域防災計画に位置付けられた重要な医療機関等と水処理センターとを結ぶ管きよの耐震化を実施し、着実に事業の推進が図られている。

評価指標の達成状況

成果指標No.5:重要な管きよの耐震化率

定義

市内全域において、重要な管きよの地震対策が完了した延長の割合

算定式

耐震化された重要な管きよ延長／重要な管きよの総延長 ×100 (%)

達成状況

現況値 (R3)	目標値 (R7)	実績値 (見込)	目標達成状況
87.0% (605.6 / 695.9 km × 100)	89.7%	89.7% (624.4 / 695.9 km × 100)	達成 (見込)

※R4～R7の進捗(見込) : +18.8 km

達成状況に対する所見

下水道機能の確保の優先度が高い重要な管きよの耐震化を実施し、着実に事業の推進が図られている。

評価指標の達成状況

成果指標No.6:水処理センターの揚水機能確保率

定義

水処理センターにおいて、揚水機能を対象とした地震対策が完了した施設の割合

算定式

$$\frac{\text{災害時の揚水機能の確保に向けた対策が完了した水処理センター数}}{\text{水処理センター数}} \times 100 \text{ (%)}$$

達成状況

現況値 (R3)	目標値 (R7)	実績値	目標達成状況
75.0% (3 / 4 箇所 × 100)	100%	100% (4 / 4 箇所 × 100)	達成

※R4～R7の進捗：+1 箇所

達成状況に対する所見

麻生水処理センターにおいて耐震診断を実施し、耐震性能が確保されていることを確認。水処理センターの揚水機能を対象とした地震対策の完了により、着実に事業の推進が図られている。

評価指標の達成状況

成果指標No.7:ポンプ場の汚水揚水機能確保率

定義

ポンプ場において、汚水揚水機能を対象とした地震対策が完了した施設の割合

算定式

$$\frac{\text{災害時の汚水揚水機能の確保に向けた対策が完了した汚水ポンプ場数}}{\text{汚水ポンプ場数}} \times 100 \text{ (%)}$$

達成状況

現況値 (R3)	目標値 (R7)	実績値 (見込)	目標達成状況
54.5% (6 / 11箇所 × 100)	100%	100% (11 / 11箇所 × 100)	達成 (見込)

※R4～R7の進捗 (見込) : +5 箇所

達成状況に対する所見

大師河原ポンプ場などにおいて自然流下への切替工事や、小向ポンプ場などにおいて汚水揚水機能確保に向けた取組を進めるなど、5施設の汚水揚水機能を対象とした地震対策を実施し、着実に事業の推進が図られている。

評価指標の達成状況

成果指標No.8:水処理センターの消毒機能確保率

定義

水処理センターにおいて、消毒機能を対象とした地震対策が完了した施設の割合

算定式

$$\frac{\text{災害時の消毒機能の確保に向けた対策が完了した水処理センター数}}{\text{水処理センター数}} \times 100 \text{ (%)}$$

達成状況

現況値 (R3)	目標値 (R7)	実績値	目標達成状況
50.0% (2 / 4箇所 × 100)	50.0%	50.0% (2 / 4箇所 × 100)	達成

※R4～R7の進捗：-

達成状況に対する所見

入江崎水処理センターにおいて、水処理できれいになった水を消毒する施設の耐震化、消毒した水を海へ流す管きよの耐震化など、消毒機能の確保に向けた耐震補強工事の実施により、着実に事業の推進が図られている。

評価指標の達成状況

成果指標No.9:下水道施設の燃料貯蔵容量確保率

定義

ポンプ場、水処理センター及びスラッジセンターにおいて、燃料貯蔵容量の確保へ向けた対策が完了した施設の割合

算定式

災害時の燃料貯蔵容量の確保に向けた対策が完了したポンプ場、水処理センター、スラッジセンター数／ポンプ場、水処理センター、スラッジセンター数 ×100 (%)

達成状況

現況値 (R3)	目標値 (R7)	実績値	目標達成状況
0% (0 / 24箇所 × 100)	16.7%	8.3% (2 / 24箇所 × 100)	未達成 (見込)

※R4～R7の進捗 (見込) : +2箇所

達成状況に対する所見

入江崎水処理センターと江川ポンプ場において燃料タンク等の整備を完了した一方で、麻生水処理センターと踊場ポンプ場において、入札の不調により、完成年度が令和8年度となることから、成果指標の目標値を下回る見込み。

評価指標の達成状況

成果指標No.10:汚泥圧送管の再整備率

定義

耐用年数を超過した路線のうち、再整備が完了した箇所の割合

算定式

$$\text{再整備完了箇所数} \quad / \quad \text{再整備対象箇所数} \quad \times 100 \quad (\%)$$

達成状況

現況値 (R3)	目標値 (R7)	実績値 (見込)	目標達成状況
12.5% (1 / 8 箇所 × 100)	25.0%	25.0% (2 / 8 箇所 × 100)	達成 (見込)

※R4～R7の進捗 (見込) : +1 箇所

達成状況に対する所見

老朽化した汚泥圧送管（等々力水処理センター～戸手ポンプ場間）の再整備の完了により、着実に事業の推進が図られている。

評価指標の達成状況

成果指標No.11:高度処理普及率

定義

全計画処理能力のうち、赤潮の原因物質でもある窒素やりん等を除去することができる処理方法が導入された割合

算定式

$$\text{全高度処理能力} \quad / \quad \text{全計画処理能力} \times 100 \text{ (%)}$$

達成状況

現況値 (R3)	目標値 (R7)	実績値 (見込)	目標達成状況
59.3% ($512,700 / 864,220 \text{ (m}^3 \text{ /日)}$ $\times 100$)	100%	100% ($864,220 / 864,220 \text{ (m}^3 \text{ /日)}$ $\times 100$)	達成 (見込)

※R4～R7の進捗(見込) : +351,520 (m³ /日)

達成状況に対する所見

等々力水処理センターにおいて更なる高度処理化に向けたや流量調整池の工事や既設反応タンクの改造を推進したほか、市費による入江崎水処理センター（東系）において段階的な高度処理の導入を完了したことから、着実に事業の推進が図られている。

評価指標の達成状況

成果指標No.12:合流式下水道改善率

定義

合流式下水道区域面積のうち、雨天時に未処理の下水の一部が河川や海域に放流されるごとへの対策が完了した面積の割合

算定式

$$\text{合流式下水道改善対策完了区域面積} \quad / \quad \text{合流式下水道区域面積} \times 100 \text{ (%)}$$

達成状況

現況値 (R3)	目標値 (R7)	実績値 (見込)	目標達成状況
73.5% (2,610.3 / 3,550.1 ha × 100)	100%	73.5% (2,610.3 / 3,550.1 ha × 100)	未達成 (見込)

※R4～R7の進捗(見込)：-

達成状況に対する所見

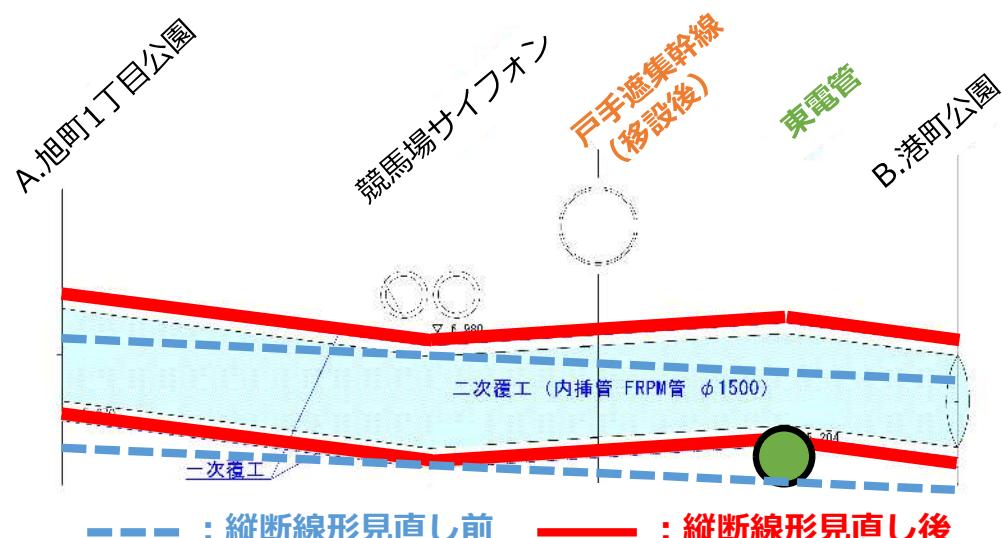
大師河原ポンプ場の送水ポンプ棟などの改築を完了した一方で、六郷遮集幹線の整備について、支障となる地下埋設物の移設協議に時間を要した上、移設工事にあたり想定外の地中障害物が複数あり、撤去工事に不測の日数を要したことから、遅延が生じており、成果指標の目標値を下回る見込み。（未達成要因の詳細は次頁）

評価指標の達成状況

未達成の要因(成果指標No.12:合流式下水道改善率)



六郷遮集幹線その4工事 縦断図



- 未達成の要因① (R6.1→R7.3)
戸手遮集幹線の移設にあたり、想定外の地中埋設物の調査及び撤去作業に時間を要した。
- 未達成の要因② (R7.3→R8.3)
東電管の移設協議に時間を要した上、移設工事にあたり、想定外の地中埋設物が複数あり、時間を要した。
- 未達成の要因③ (R8.3→R9.3)
東電管一部撤去のための立坑築造時に地下水の出水等により、想定外の時間を要した。
また、複数の地中埋設物を避けるため、縦断線形の見直し等が必要となり、施工検討等に時間を要した。

評価指標の達成状況

成果指標No.13:温室効果ガス排出量の削減割合(2013年度比)

定義

水処理センター・ポンプ場における設備の更新に合わせた高効率機器の導入などにより、温室効果ガス排出量が削減された割合

算定式

$$\frac{(2013 \text{年度の温室効果ガス排出量} - \text{温室効果ガス排出量})}{2013 \text{年度の温室効果ガス排出量}} \times 100 \text{ (%)}$$

達成状況

現況値 (R3)	目標値 (R7)	実績値 (見込)	目標達成状況
15.9% ((93,901 - 78,974) / 93,901 t-CO ₂ × 100)	27.7%	27.7% ((93,901 - 67,900) / 93,901 t-CO ₂ × 100)	達成 (見込)

※R4～R7の進捗(見込)：-11,074 t-CO₂

達成状況に対する所見

入江崎総合スラッジセンター 1 系焼却炉の再構築を推進したほか、大師河原ポンプ場や麻生水処理センター等における省エネ機器の導入など、温室効果ガス排出量の削減に取り組み、着実に地球温暖化対策事業の推進が図られている。

市民に対する意見募集等の結果(アンケート調査)

アンケート調査の概要(川崎上下水道局市民意識調査)

○調査対象

無作為に抽出した18歳以上の市民3,000人
(回収数1,546件、回収率51.5%)

○調査方法

郵送によるアンケート配布、郵送・インターネット併用回収

○調査期間

令和6年6月3日～6月26日

○設問

川崎市の下水道事業内容について、日頃どのように感じているか等

○事業効果の把握

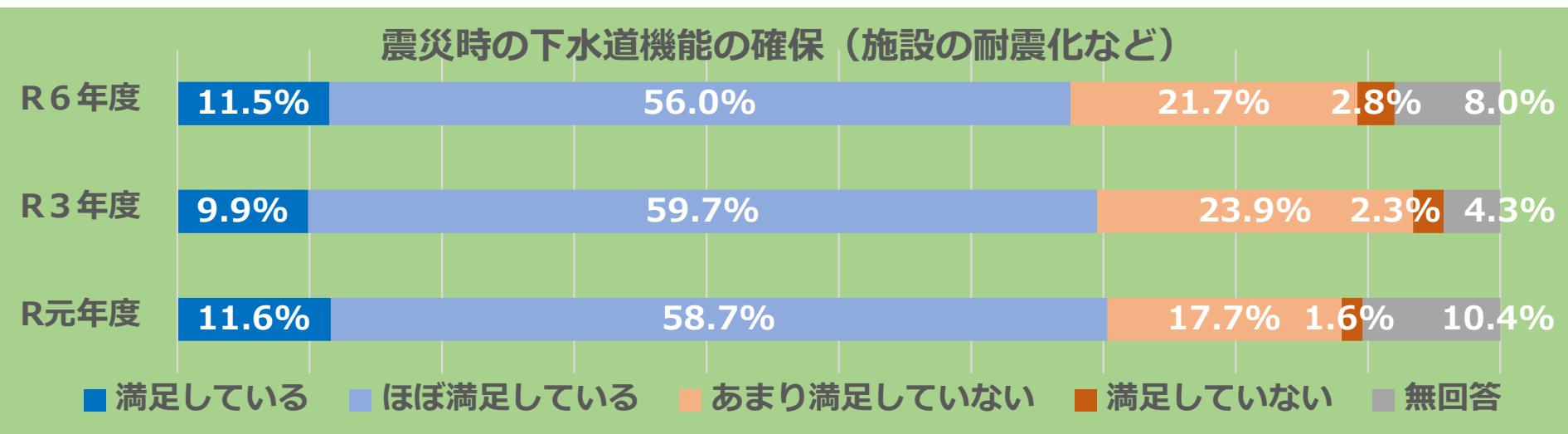
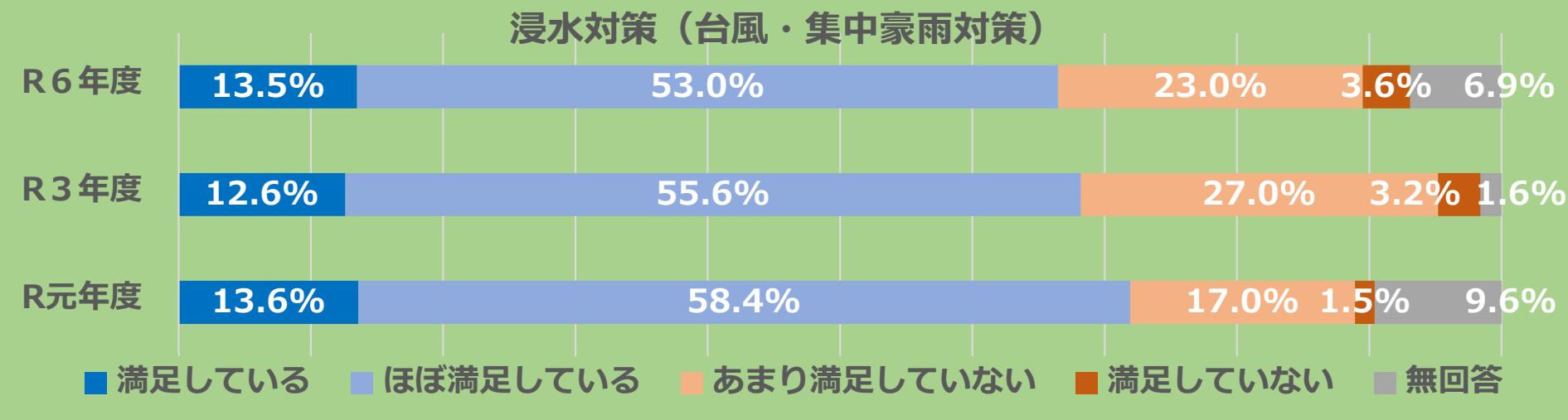
過去の市民意識調査結果との経年比較

※R3調査：令和3年9月

※R1調査：令和元年7～8月

市民に対する意見募集等の結果(アンケート調査)

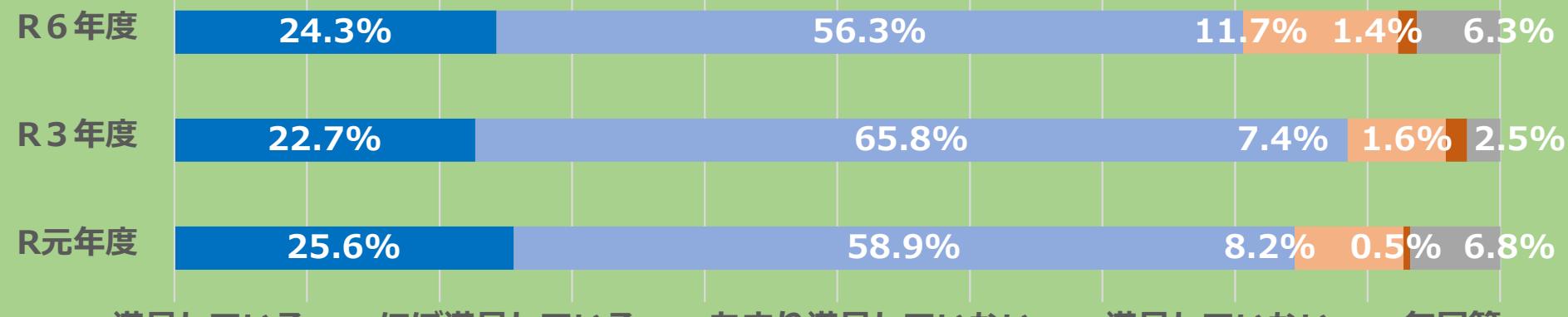
満足度の経年比較



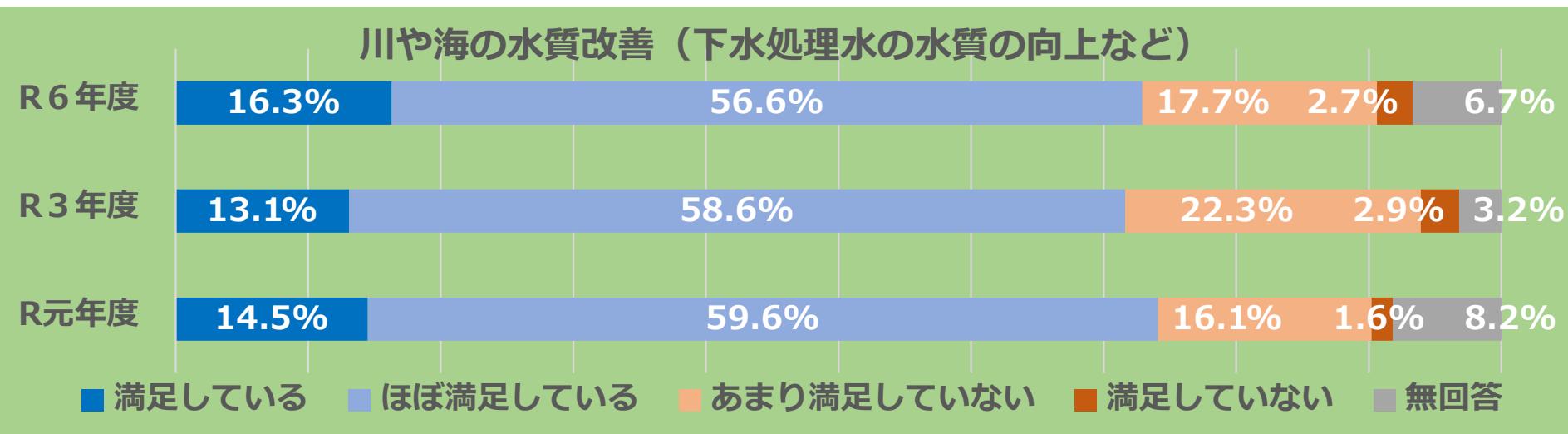
市民に対する意見募集等の結果(アンケート調査)

満足度の経年比較

安定した下水処理 (適切な維持管理と老朽化施設の更新)

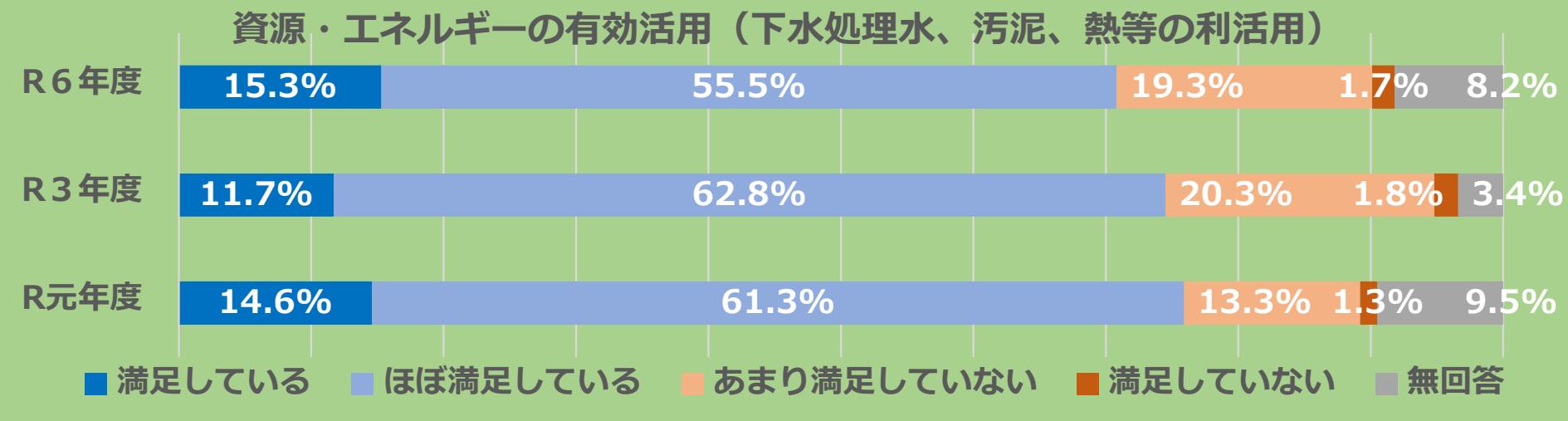


川や海の水質改善 (下水処理水の水質の向上など)



市民に対する意見募集等の結果(アンケート調査)

満足度の経年比較

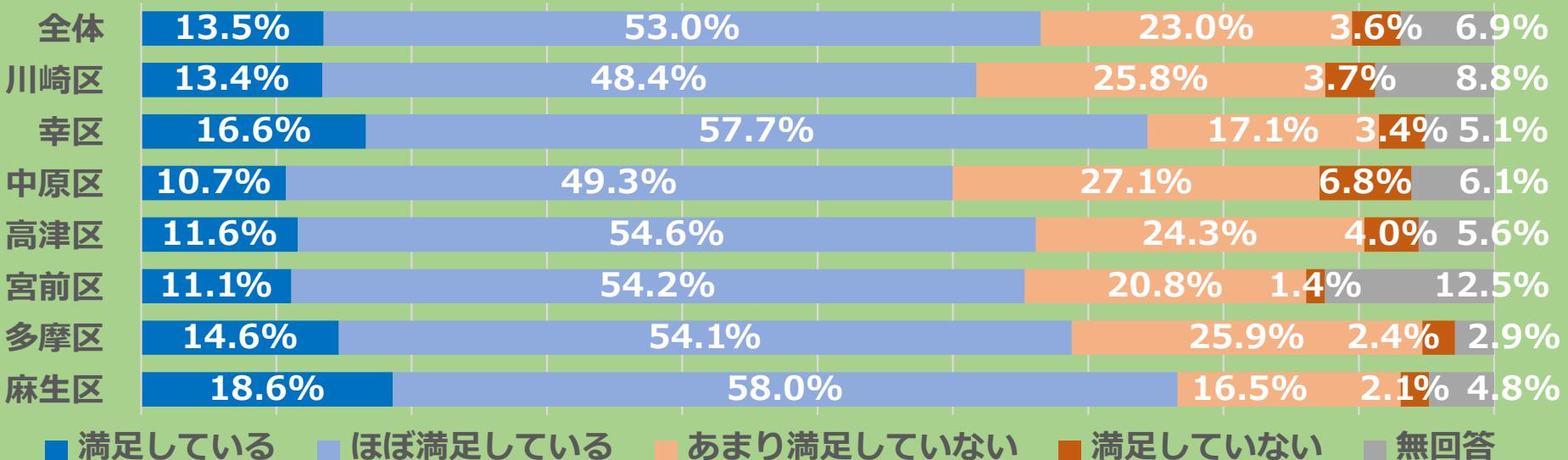


- 令和6年度調査の「満足している」、「ほぼ満足している」をあわせた満足度の割合は、浸水対策、震災時の下水道機能の確保、川や海の水質改善、資源・エネルギーの有効活用で7割程度、安定した下水処理で8割程度と高い結果であった。計画に基づき推進した各事業に対する、一定の市民の理解や効果実感が反映された結果によるものと考えられる。
- また、過去の調査における満足度の割合も概ね同様であり、高い満足度を継続している。
- 全体的に「無回答」の割合が増加し、「あまり満足していない」の割合が減少している。

市民に対する意見募集等の結果(アンケート調査)

満足度の地区別分析

浸水対策 (台風・集中豪雨対策)



行政区	R6 雨水整備率	住家浸水被害発生件数（床上+床下）						合計
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	
川崎区	100%	112	0	0	0	0	0	112
幸区	99.7%	12	0	0	0	0	0	12
中原区	87.8%	1090	0	0	0	0	0	1090
高津区	39.6%	1148	0	0	1	0	0	1149
宮前区	30.1%	2	0	0	0	0	2	4
多摩区	31.9%	362	0	0	2	0	0	364
麻生区	53.1%	0	2	0	0	0	0	2

- 「満足している」、「ほぼ満足している」をあわせた満足度の割合は、すべての行政区で6割～7割強と半数以上を占める結果である。
- 行政区分では、最大で1割強の差がみられており、麻生区が最も高く、中原区が最も低い。
- 令和元年東日本台風以降、浸水がほとんど発生していないことから、浸水被害状況と行政区別の満足度に相関は見られなかった。

市民に対する意見募集等の結果(アンケート調査)

満足度の地区別分析

震災時の下水道機能の確保 (施設の耐震化など)

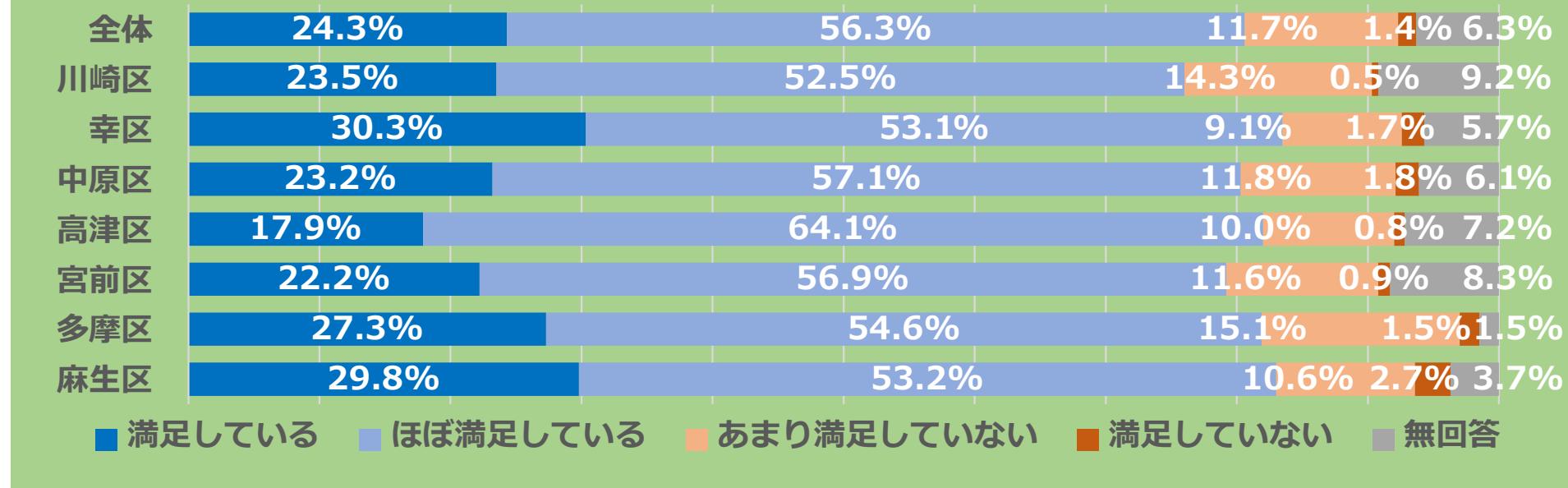


- 「満足している」、「ほぼ満足している」をあわせた満足度の割合は、すべての行政区で6割～7割強と半数以上を占める結果である。
- 行政区別では、最大で1割強の差がみられており、幸区が最も高く、宮前区が最も低い。

市民に対する意見募集等の結果(アンケート調査)

満足度の地区別分析

安定した下水処理 (適切な維持管理と老朽施設の更新)



- 「満足している」、「ほぼ満足している」をあわせた満足度の割合は、すべての行政区で7割強～8割と高い結果である。
- 行政区別では、最大で1割弱の差がみられており、幸区が最も高く、川崎区が最も低い。

市民に対する意見募集等の結果(アンケート調査)

満足度の地区別分析

川や海の水質改善 (下水処理水の水質の向上など)

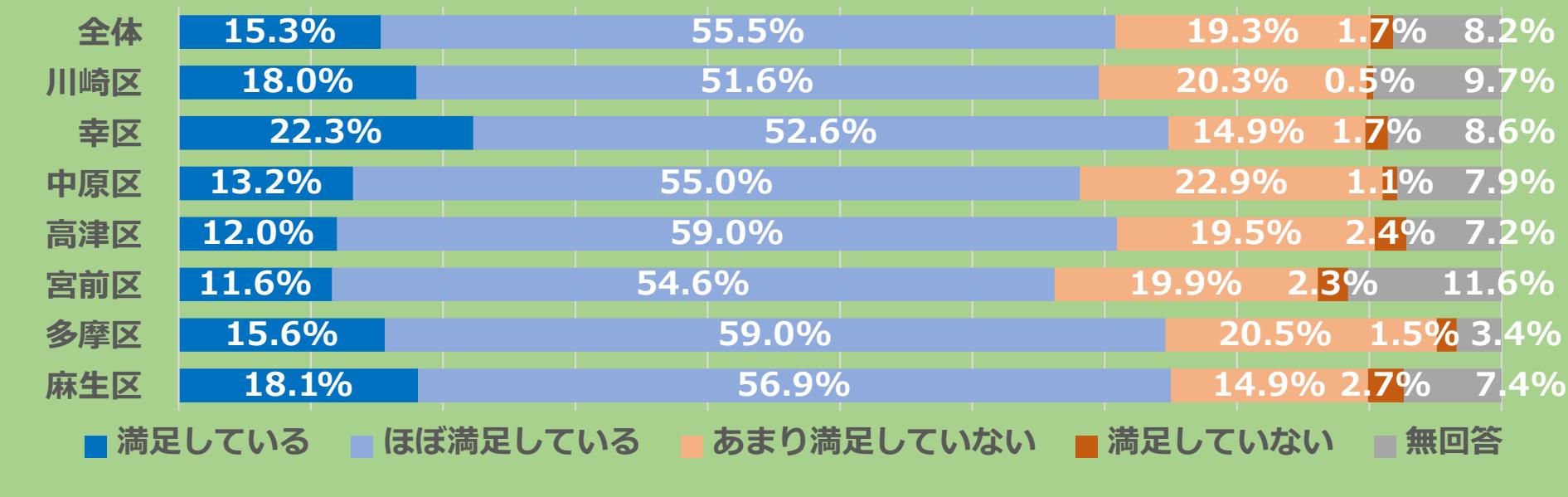


- 「満足している」、「ほぼ満足している」をあわせた満足度の割合は、すべての行政区で6割強～7割強と半数以上を占める結果である。
- 行政区別では、最大で1割弱の差がみられており、多摩区が最も高く、川崎区と中原区が最も低い。
- 川の下流や東京湾に近くなるにつれて、満足度が低くなる傾向にある。

市民に対する意見募集等の結果(アンケート調査)

満足度の地区別分析

資源・エネルギーの有効活用（下水処理水、汚泥、熱等の利活用）



- 「満足している」、「ほぼ満足している」をあわせた満足度の割合は、すべての行政区で6割強～7割強と半数以上を占める結果である。
- 行政区別では、最大で1割弱の差がみられており、麻生区が最も高く、宮前区が最も低い。

市民に対する意見募集等の結果(アンケート調査)

アンケート調査(自由意見欄)

	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	計
自由意見欄記載数※	16	20	40	38	36	18	21	189
浸水対策	2	0	5	2	2	1	0	12
震災時の下水道機能の確保	0	3	2	3	0	2	0	10
安定した下水処理	0	1	3	3	2	0	1	10
川や海の水質改善	0	0	3	5	0	1	0	9
資源・エネルギーの有効活用	0	1	0	0	0	0	0	1
その他（広報、下水道使用料、謝意など）	14	15	27	25	32	14	20	147

※下水道事業に係る自由意見等を集計した数値

- 事業毎に分類すると「浸水対策」に対する意見が最も多く、対策を推進するよう要望する声が多数を占めた。（回答例：近年災害が増えているので、対策を強化してほしい。）
- その他、日頃の下水道事業への謝意が多く寄せられた。
(回答例：これまで不自由なく使用させていただき感謝しています。)
- その他、下水道事業の内容について、アンケート調査を通じて初めて知ったとの声も多かった。
(回答例：アンケートにより初めて上下水道に关心を持ちました。)

総合的な所見及び今後の方針

川崎市公共下水道 社会資本総合整備計画

総合的な所見

● 高度処理

水処理センターの高度処理化に取り組んだ結果、成果指標の目標値を達成することができた。この成果により、多摩川や東京湾の水質環境基準などの達成・維持に向け、着実に推進することができたと言える。また、市民意識調査の結果から、川や海の水質改善に対する満足度は、令和3年度調査から向上しており、市民の効果実感に繋がっていることも確認された。

今後の方針

● 高度処理

引き続き、多摩川や東京湾の水質環境基準などを達成・維持するため、新たな施設の整備や水処理施設の改造などにより、水処理センターの高度処理化の取組などを推進する。

総合的な所見及び今後の方針

川崎市公共下水道 社会資本総合整備計画(防災・安全)

総合的な所見

● 浸水対策

重点化地区や排水樋管周辺地域における浸水対策、水処理センター・ポンプ場の耐水化に取り組んだ結果、成果指標の目標値を達成する見込み。この成果により、市街地に降った雨による浸水の防止や河川氾濫等の浸水時における下水の排水機能の確保に向け、着実に推進することができたと言える。また、市民意識調査の結果から、浸水対策に対する満足度は、令和3年度調査から向上しており、市民の効果実感に繋がっていることも確認された。

● 地震対策

重要な管きよの耐震化、水処理センター・ポンプ場の耐震化に取り組んだ結果、成果指標の目標値を達成する見込み。この成果により、大規模地震発生時における下水の排水機能の確保に向け、着実に推進することができたと言える。一方で、燃料貯蔵容量の確保に向けた燃料タンクの改築に取り組んだ結果、麻生水処理センターと踊場ポンプ場において、入札の不調により、完成年度が令和8年度となることから、成果指標の目標値を下回る見込み。しかしながら、工事は推進していることから、被災後72時間の下水道機能の維持に向け、着実に推進することができたと言える。また、市民意識調査の結果から、震災時の下水道機能の確保に対する満足度は、令和3年度調査から向上しており、市民の効果実感に繋がっていることも確認された。

● 老朽化対策

老朽化した管きよ・施設の計画的な再整備・再構築に取り組んだ結果、成果指標の目標値を達成する見込み。この成果により、老朽化した施設による不具合の防止に向け、着実に推進することができたと言える。一方、市民意識調査の結果から、安定した下水処理に対する満足度は、令和3年度調査から低下しており、市民の効果実感に繋がっていないことが確認された。

● 地球温暖化対策

入江崎総合スラッジセンター焼却炉の再構築等に合わせた温室効果ガス削減に取り組んだ結果、成果指標の目標値を達成する見込み。この成果により、カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現に向け、着実に推進することができたと言える。また、市民意識調査の結果から、資源・エネルギーの有効活用に対する満足度は、令和3年度調査から僅かに向上しており、市民の効果実感に繋がっていることも確認された。

総合的な所見及び今後の方針

川崎市公共下水道 社会資本総合整備計画(防災・安全)

今後の方針

● 浸水対策

引き続き、市街地に降った雨による浸水の防止や河川氾濫等の浸水時においても下水の排水機能を確保するため、雨水管きょやポンプゲート設備などの整備による重点化地区や排水樋管周辺地域における浸水対策、防水扉の設置などによる水処理センター・ポンプ場の耐水化の取組などを推進する。

● 地震対策

引き続き、大規模地震発生時においても下水の排水機能を確保するため、麻生水処理センターと踊場ポンプ場における燃料タンクの改築の早期の工事完成に取り組むとともに、避難所や重要な医療機関と水処理センターとを結ぶ管きょなどの重要な管きょの耐震化、水処理センターの消毒施設やポンプ場の揚水施設の耐震化の取組などを推進する。

● 老朽化対策

引き続き、老朽化した施設による不具合を未然に防ぐため、健全度の予測やリスク評価、施設の状態などを踏まえて、老朽化した管きょ・施設の計画的な再整備・再構築の取組などを推進する。

● 地球温暖化対策

引き続き、カーボンニュートラル・脱炭素社会を実現するため、省エネルギー機器の導入や汚泥焼却の高度化により、入江崎総合スラッジセンター焼却炉の再構築などに合わせた温室効果ガス削減の取組などを推進する。

総合的な所見及び今後の方針

川崎市公共下水道 社会資本総合整備重点計画(防災・安全)

総合的な所見

● 浸水対策

重点化地区における浸水対策、水処理センター・ポンプ場の耐水化に取り組んだ結果、成果指標の目標値を達成する見込み。この成果により、市街地に降った雨による浸水の防止や河川氾濫等の浸水時における下水の排水機能の確保に向け、着実に推進することができたと言える。また、市民意識調査の結果から、浸水対策に対する満足度は、令和3年度調査から向上しており、市民の効果実感に繋がっていることも確認された。

● 地震対策

水処理センター・ポンプ場の耐震化に取り組んだ結果、成果指標の目標値を達成する見込み。この成果により、大規模地震発生時における下水の排水機能の確保に向け、着実に推進することができたと言える。一方で、燃料貯蔵容量の確保に向けた燃料タンクの改築に取り組んだ結果、麻生水処理センターと踊場ポンプ場において、入札の不調により、完成年度が令和8年度となることから、成果指標の目標値を下回る見込み。しかしながら、工事は推進していることから、被災後72時間の下水道機能の維持に向け、着実に推進することができたと言える。また、市民意識調査の結果から、震災時の下水道機能の確保に対する満足度は、令和3年度調査から向上しており、市民の効果実感に繋がっていることも確認された。

● 合流式下水道の改善

合流式下水道区域における、河川への放流回数の削減に向けた六郷遮集幹線の整備に取り組んだ結果、支障となる地下埋設物の移設協議に時間を要した上、移設工事にあたり想定外の地中障害物が複数あり、撤去工事に不測の日数を要したため、成果指標の目標値を下回る見込み。一方で、工事は推進していることから、水質汚濁の防止や公衆衛生上の安全の継続的な確保に向け、着実に推進することができたと言える。また、市民意識調査の結果から、川や海の水質改善に対する満足度は、令和3年度調査から向上しており、市民の効果実感に繋がっていることも確認された。

総合的な所見及び今後の方針

川崎市公共下水道 社会資本総合整備重点計画(防災・安全)

今後の方針

● 浸水対策

引き続き、市街地に降った雨による浸水の防止や河川氾濫等の浸水時においても下水の排水機能を確保するため、雨水管きょなどの整備による重点化地区や排水樋管周辺地域における浸水対策、防水扉の設置などによる水処理センター・ポンプ場の耐水化の取組などを推進する。

● 地震対策

引き続き、大規模地震発生時においても下水の排水機能を確保するため、麻生水処理センターと踊場ポンプ場における燃料タンクの改築の早期の工事完成に取り組むとともに、水処理センターの消毒施設やポンプ場の揚水施設の耐震化、既存燃料貯蔵容量の増強による燃料貯蔵容量の確保の取組などを推進する。

● 合流式下水道の改善

引き続き、水質汚濁の防止や公衆衛生上の安全を継続して確保するため、六郷遮集幹線の早期の工事完成に取り組むとともに、合流式下水道の改善効果の確認、合流改善スクリーンなどの点検・修繕や放流水の水質管理などによる改善施設の適切な維持管理の取組を推進する。

まとめ

次期計画（令和8年度～令和11年度）

- ・川崎市公共下水道 社会資本総合整備計画
- ・川崎市公共下水道 社会資本総合整備計画（防災・安全）
- ・川崎市公共下水道 社会資本総合整備計画重点計画（防災・安全）

- 浸水対策、地震対策（重要な管きよの耐震化、水処理センター・ポンプ場の耐震化）、老朽化対策、高度処理、地球温暖化対策については、すべての事業において成果指標が目標値を上回っており（見込み含む）、各種取組についても計画どおり進捗している。
- 地震対策（燃料貯蔵容量の確保）については、麻生水処理センターと踊場ポンプ場において、入札の不調により、完成年度が令和8年度となることから、目標値を下回る見込みとなったものの、工事は一定程度進捗している。
- 合流式下水道の改善については、六郷遮集幹線の整備に遅延が生じたことから、成果指標が目標値を下回る見込みとなったものの、工事は一定程度進捗している。
- 総合的に見ると、取組は順調に進捗しており、計画どおり下水道による良好な循環機能の形成の実現が進んだものと考えられる。
- 一方で、引き続き取り組むべき課題も残されていることから、次期計画を策定し、六郷遮集幹線の早期の工事完成に向けて取り組むとともに、各種対策の推進を図り、事業効果の早期発現を目指す。
- 入札不調には、担い手不足等の構造的な問題があるものと考えており、その対応として、引き続き、年度当初などの工事閑散期に向けた発注や、余裕期間制度の活用などによる施工時期の平準化に取り組み、円滑な工事施工体制を確保することで解消に努める。